

人と **心で感じた**

動物の
いる風景

塩川香世 監修
UTAブック 編



目 次

はじめに

監修者から 塩川香世 2

「波動」に関する実験 編集者から 桐生 敏明 6

Birth 誕生 17

Joyful Heart 喜びにあふれた心 21

Mother's Heart おかあさん 47

Love 愛 71

Healing 癒^{いや}し 87

Death 死 97

Natural Disaster 天変地異 137

Wave 波動 141

Our Home Land ふるさと 161

おわりに 166

はじめに

監修者から 塩川 香世

皆さん、こんにちは。私は塩川香世と言います。本書の編集者の桐生敏明さんの学びの友です。と私は思っています。彼はどういうふうに思っておられるか、それはさておき、本書出版にあたり、桐生さんから思いを綴^{つづ}ってくださいという依頼を受けましたので、この場をお借りしまして、日頃、私が思っていることを簡単に語らせていただきます。

私達は学びの友と言いましたが、私には数多くの学びの友がいます。この学びというのは、編集者の体験ということで桐生さんご自身もかいつまんで紹介してくれています。今は亡き田池留吉という方を中心に、私達は長い人で三〇年余りの年月、たつたひとつの真実を目指して学び続けてきました。今もちろん、学び続けています。たつたひとつの真実、それは何だと思えますか。

この世のどこかに必ず本当のことがあると思いつけてきた私でしたが、ご多分に漏^もれずに

世間の波に流れながら、面白おかしく、そしてそれなりに真面目に暮らしてきました。

そんな私に、ある転機が訪れました。この世のどこかに必ず本当のことがあると思い続けてきた私の思いを何とか現実のこととしてとらえられるであろう方向に、自らを誘導していったその先に立っていたのが、大阪府南河内郡河南町大宝在住の田池留吉という名の初老のお方でした。

聞けば、大阪府立高等学校の校長先生だったとか。私は、その田池留吉という方を中心に開催されたセミナーに二〇年余り参加させていただき、学びのテーマ



（塩川香世さんの愛犬・シンちゃん 2012年7月31日死亡 13歳）

である「私達人間は肉ではありません。意識、波動、エネルギーです。」ということについて、自分自身の心で学んでまいりました。田池留吉氏には、言葉には尽くせないほどにご助力をいただき、ようやく、ようやく、自らの間違いに気付かせていただいた次第です。

本当に田池留吉という方、不思議な方でした。一見、何の変哲もない老人なんですが、彼を通して、形あるもの、形で示されなければ信じない私の心に、もつと言うならば、私の意識の世界に非常に大きな衝撃を受けた事実は決して揺るがせない事実でした。と言っても、田池留吉氏というのは、俗にいう教祖、指導者等の類ではありません。「私と欲は一切合わない」と言い切った言葉に嘘偽りはありませんでした。欲を持って田池留吉氏と付き合っても、それは単なる世間一般のお付き合いの範疇を超え（はんちゆう）ることはありませんでした。

それよりも何よりも、互いに一つの肉体を持つて学ばせていただく時間と空間を共有できたことがすごいことでした。

もうお分かりのように、それは私達が平素使う言葉、言語社会ではまったく通じ合わない波動の世界を学ぶという絶好のチャンスを私はいただいてきました。

「自分の心を見る」というのは、たった十文字ですが、それはすごい意味を持っています。

私は、正しく誰にも後ろ指をさされるような生き方はしてこなかったと思われる方、

そしてまた私はそんな欲深くはない、世間並みのささやかな幸せがあればそれでいいと思っておられる方、あるいは生きていくのは辛い、しんどい、人生とは何だろうかとする種の行き止まりを感じておられる方、その他どんな方でもいいんです。

どうぞ、「自分の心を見る」ということはいったいどういうことなのだろうかと、あなたの今の状態から思いを馳せてみませんか。

頭脳を誇ってきた私達人間が、動物や植物のように自然と一体化して生きていくのは至難の業かもしれませんが、ですが、あなたの今にほんの少しでも風穴を開けていただくきっかけに本書がなればいいと切に思っています。

「波動」に関する実験

編集者から 桐生敏明

写真の人物は、大阪府南河内郡河南町大宝に住む田池留吉（じい）というお爺さんです。

住むというよりか住んでいたと言ふべきでしょうか。この田池先生、今から三年前の二〇一五年十二月、九十歳でお亡くなりになりました。若い頃は、大変な秀才だったようで、家が貧（まず）しかったため、大阪府立市岡中学校（旧制）卒業後は、経済的な理由で陸軍士官学校に入学されたといひます。正確に言う（と）「陸軍予科士官学校六〇期」に入学し、卒業後、「陸軍航空士官学校」に配属されたということになります。終戦が近づくとや特攻隊を率（ひき）いて出撃するはずでしたが、そのための訓練もままならないまま、終戦となつてしまいました。

一時は死を覚悟し、「何のために死ぬのか」を自分に問い続けた青春時代でした。それが終戦の詔勅（しよくちよく）以降、まったく価値観が変わつてしまいました。そんな中、田池先生は大阪高等学校（今の大阪大学）へ再入学され、教師の道を歩き出すことになったのです。



僕が田池先生を知ったのは、東百舌鳥^{ひがしもず}高等学校の校長先生だった頃です。こんなわけで「先生」が代名詞みたいになってしまいましたが、その田池先生、出会った翌年、定年まであと一年を残して校長職を依願退職されてしまったのです。僕が出会った頃には、まだ校長職をしながら「人間はなぜ生まれてくるのか」「人間の本質は肉体ではなく心」「他人や社会を変えるのではなく、自分が抱^かえている闇に気づき、自分を変えていく」としないかぎり何も変わらない」……、それらのことを手弁当で伝え続けておられました。

そんな田池先生のもとへ、お子さんや家族のことで相談に来られたり、話を聞きに来られたりする方が次第に増え、田池先生も、たくさんの方に本当のことを知ってもらおうと、定年を

待たず校長職を辞された次第です。

僕も最初は反発していましたが、否定できないことが次々と自分の中で起こり、以来、お亡くなりになるまで、三十年以上、勝手に「師」と決め、お付き合いすることになりました。

その田池先生、常々、動物の優しさについてよく話されていましたが、お亡くなりになる前年だったと思うのですが、「イルカ」や「クジラ」について「人間に近い存在で私も興味を持っている」と、唐突に話されたことがあり、「言葉でなく意識で通じ合える存在だ」とも言われました。すべての生き物がそうなのですが、特にイルカやクジラにはそう感じさせる「何か」があるようです。このときは、たくさんの方の前で話されていたのですが、いきなり「なあ桐生さん、頼んだで……」と、なぜか名指しで頼まれてしまうことになりました。

長くなりましたが、これが、僕が「イルカ」や「クジラ」に興味を持つようになった最初です。ただ未だに何を頼まれたかが掴めていないのですが……。

ところで、人間は言葉を使います。だから言葉を信じがちです。でも、言葉で「あなたは良い人だ」と言っても、心では「おまえは嫌なやつだ」と思っているかもしれない。そうだとすれば、どちらが本当でしょう。「良い人だ」という言葉とは裏腹に、その人からは「嫌なやつだ」という思いが流れているはず。思いはエネルギーですから、表面的にうまくいつ

しょうかい イルカの紹介

もも



ているように見えても、いつか破綻^{はたん}を来^{きた}すという事態が起こってきたりします。

これに対し、動物は言葉でなく、鳴き声や吠^ほえ声に、喜びや怒り、悲しみの波動を乗せます。その最たるものがイルカやクジラたちのように感じます。

高度に発達した知能を持ちながらも、鳴き声に何とも言えない優しい波動を感じさせます。

前置きがずいぶんと長くなってしまいました。

さてと、この写真は、ドルフィンファームで、スイムコースに参加した人に配られる手作りの案内書の一部です。所属するイルカさんたちが、その性格を表す一

言とともに紹介されています。僕の姪っ子がドルフィン・スイム（イルカと泳ぐプログラム）に参加し、もらってきたものです。それを、また僕が借り受けたという次第です。

この紹介ページを使って、僕の実験がスタートしました。まだ見ぬイルカさんと思いを通じ合えるのかという実験です。まずターゲットとなる特定の一頭を選びます。選ぶ根拠はありません。若い頃、ミヒヤエル・エンデという作家にのめり込んだことがあります。彼の作品の中でも特に好きだったのが「モモ」。そこで選んだのが「モモ」というイルカです。写真の下には「性格／食いしん坊、頑張り屋」さんとあります。

「もも」の写真を携帯に取り込み、ことあるごとに開いては、その「もも」の写真に心の中で語りかけました。「こんにちは」にはじまり、自己紹介を試みたり、「今度、会いに行きますので、よろしく」だったり、写真を開かなくても、「もも」と、ただ思ってみたり、そんな他愛もない繰り返しを二週間近くもやっただでしょうか。

そうする一方で、スイミングスクールの個人レッスンを申込み、イルカと自由自在に泳げるようになるうとしました。

……が、これは失敗でした。水に対する恐怖心が抜けず、身体が硬くなり、あぐくは頭がガンガン痛みだす始末。ともかく浮いて前へ進むぐらいはできるようになりましたが、イル



力さんと自由自在に泳ぎ回るなんて、夢のまた夢のことです。

でも、めげてはいられません。泳げないイルカの学者さんだっているんだから……そう、自分に言い聞かせ、女房と二人、ドルフィンファームのスイムコースに予約を取った次第です。

こうして女房と二人して「淡路じゃのひれアウトドリゾート」へとやってきました。まずは予約の確認と「ドルフィン・スイム」の申込みを済ませ、時間まで海水プールを見学します。何より大事な実験結果はどうなっているでしょう。ここ二週間というものの、まだ見ぬ「もも」に思いを寄せつけ、ひたすら心の中で「もも」に語りつけてきました。

とはいうものの、この場に臨んで、期待は、「そ

んなわけないよなあ」「思うだけで通じるわけないよなあ」と、そんなあきらめムードに変わっていました。

期待半分あきらめ半分、そんな感じで「もも」のプールを探していると、

「ありました！」

中ほどのプールの前に案内表示が出ています。「もも」と、もう一頭「ゆず」と表示されています。

ここが「もも」のプールか！

そう思った瞬間です。背後で「バシャーン」という水しぶき。頭に冷たい水滴が降りかかります。

あわてて振り返ると——！！

「もも」と「ゆず」が、二頭でジャンプをはじめ、それが、なかなか終わらないのです。あわててカメラを取り出しますが、連写モードになっていなかったため、なかなかジャンプのスピードに追いつけず、パチリパチリとシャッターを切り続けます。それでもジャンプは終わりません。

ついには係の方が驚いて飛び出してくる始末です。

ジャンプするのは、餌をほしいときとか、遊んでほしいときらしいのですが、普通は二、三回もすれば終わると言います。それが十回どころか、あわてて数えだしたときからでも二十回以上もジャンプが続いているのです。

とても威嚇いかくのようには思えません。

「思いが伝わったんだ！」とつさにそう思ってしまった。

思い込みかも知れませんが、それでも、シャッターを切っていて訳もなく涙が止まりません。大の男が恥ずかしい話ですが、水しぶきと一緒になっているので泣いているのは、何とかごまかせそうです。

係の人が飛び出してきた頃にはジャンプも下火になり、やがて海面も静かになっていきました。

ひよっとして何かの偶然かも、そうも思いましたが、この一年後、しまなみ海道にドルフィンファームが新たにオープンしたことです。「もも」がしまなみ海道に移されることになり、それを知った僕も、取材という名目で「もも」を訪ねることにしました。

事前に電話で「もも」の移動の話を聞いていましたので、しまなみドルフィンパークに到着するなり、「ももはどこだろう、元気だろうか」と思った瞬間です。それに答えるように遠





くでジャンプするイルカがいます。まさに、そのイルカが「もも」だったのです。顔をあわせるなり、「大変だったねえ」と心の中で語りかけました。すると「もも」の何とも言えない温もりが伝わってきました。「思い込み」だとか「思い入れ強すぎ」だとか「錯覚」だとか、なんと言われようが、間違いなく「もも」は僕を覚えてくれていて喜んでくれていました。

この体験から、波動が伝わるんだということを実感しました。

人間は言葉や態度で取り繕い、嘘をつきます。自分の言葉に酔ってしまい嘘をついているのに気づかない場合だってあります。

これに対し、動物たちは言葉を持たないというか、少なくとも人間のように言葉を弄さない分、ストレートに思いが通じ合える仲間ではないかと思うのです。

特に、普通「ペット」といわれる動物たちは、僕たちが最も心を許している存在です。

その動物あるいは植物に心を向けたとき、どんな思いが返ってくるのだろうか——そこで、UTABックでは、「皆さんの身近にある動物や植物に思いを向けて、伝わってくるものを心で感じてみませんか？ 思いを向けて、感じたものを文章にして送ってください」という呼びかけをしました。

これから紹介するのは、そんな動植物と人間の「波動」による交流、その実験の結果です。

Birth

誕生

私たちは喜びで生まれてきました。どんな形の誕生であっても、喜びでこの世に出てきたんです。お母さんの子宮の中で、ゆったりと母の思いを感じ^{ゆだ}委ねる安心感の中で十月十日^{とつきとおか}過ぎました。まさに至福の時でした。母の意識からは、今度こそ、あなたの今の思いをしっかりと持ち続けてくださいというメッセージを届けてもらっていました。

どうですか。覚えていますか。遠い昔のこと、影も形もない時のことだと一^{いっしょう}笑に付きしないで、そんなあなたが確実にいたことが心^{よみがえ}に蘇ってくるあなたであってください。

(塩川 香世)

◎生まれてくる前から

喜び喜び喜びの中で

お母さんの子宮の中で安らいでいました。

ああ、ああ、うれしい。

生まれていく、うれしい、うれしい、

あなた方に出会うことも

楽しみで楽しみで

ああ、待ち望んでいました。

うれしい、うれしい、

どんどんどんどん

飛び跳ねあがるほどの喜びの中、

私は生まれてきました。

(ポポ・犬 二〇一〇年七月死亡 10歳)



◎喜びと温もりだけです。

私たちはすべてを受け入れています。

私たちは喜びで生まれてきて、

喜びで死んでいきます。

喜びで形を持って、

喜びで形を消していきます。

喜びだけです。

それ以外に何もありません。

(みいこ・野良猫 1歳)



(「みいこ」ではありませんが、1歳の保護猫です)

◎うれしい、うれしい、うれしい……

喜び喜びです。

ただただ、喜び、喜びだけ。

うれしくて、うれしくて、うれしくて……

なあーんにもない、なあーんにもない、

喜びが、喜びが……喜びだけです。

ありがとうございます、ありがとうございます。

十五、六年前、お向かいの家で野良猫のらねこが産んだ子猫です。

うちの子が、その子猫をうちの庭へつれてきたときに感じたものです。

たぶん、全盲ぜんもう、そして程なく、母猫が子猫をくわえて、どこかへ行きました。

（野良猫が産んだ子猫）



（イメージ）

Joyful Heart

喜びにあふれた心

喜びにあふれた心とはどんな心でしょうか。喜びはいついどこからくるのでしょうか。喜びにあふれた心はどこにあるのでしょうか。

喜びはもともと私達の中にあったと思ったことはありませんか。そうなんです。それは正解です。あなたの目の前に何もなくても、誰もいなくても、喜びの思いはあふれるほどにあなたの中から飛び出てくる、そんな実体験をあなたもしてみませんか。人生観、きっと変わります。喜びの本当のあなたと出会ってください。

(塩川 香世)

◎ボクは、いつもいつもみんなに伝えていきます。

こんなにうれしいんだよって。

こんなにうれしい中でみんな生きているんだよ。

ボクは幸せです。みんなとこうして居られることが幸せです。

みんなが、喜んで楽しんで生きてくれたら一番うれしいのです。

ボクは何も要りません。今日食べる少しのご飯とお水だけ。

みんなとともに過ごせたら、何も要りません。

ただうれしい。ただうれしいだけのボクの一日です。

そのうれしい時間が毎日毎日続くことが、ただただうれしい。

ボクは毎日、この喜びをみんなに伝えます。

ネエ、うれしいでしょ。ネエ、こんなに幸せだよ。ボクと遊んで！

お母さん、ありがとう。お父さん、ありがとう。

みんな、みんな、ありがとう。

ボクの幸せは、愛を伝えること。

みんなに、みんなに愛を伝えること。

うれしい気持ちを一人でも多くの人に伝えたい。

ありがとうって伝えたい。

ただそれだけなんです。

◎私を肉として見ないでください。

私は肉ではありません。

私は、今、こうして存在していることが喜びです。

ともにともに、ともにあることが本当に喜びなんです。

ありがとう。私たちはともにある意識です。



（チヨビタ・犬 6歳）

◎はい、メリーです。うれしいです。

私はあなたのもとに来て、

楽しく、喜びの中で過ごしました。

あなたなりに一生懸命になって

世話をしてくれました。ありがとう。

チロも一緒に面倒を見てくれて、

どんなにうれしかったことか……。

私も精一杯、ありがとう、うれしい、

感謝の思いをあなたに出してきました。

私の思いはそれだけでした。

あなたに少しでも分かってもらおうと、

いつも、いつもそのことだけを思っていました。

私たちはいつもいつもあなたの傍^{そば}にいます。

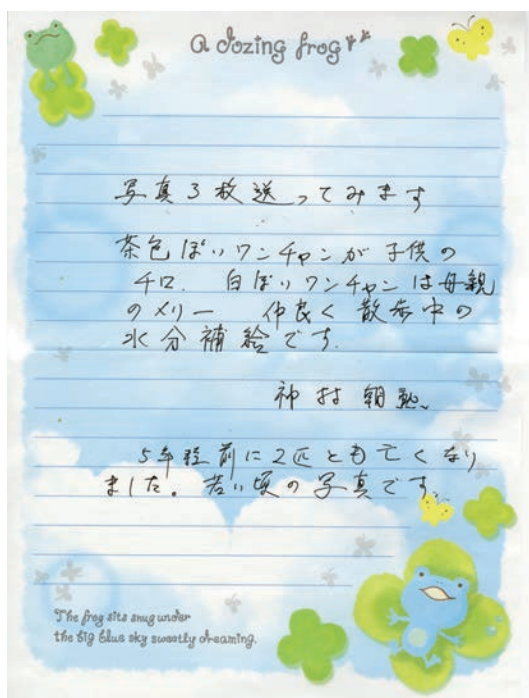




喜びの波動を送っています。

ドンドン、ドンドン喜びの波動を広げて、
心を大きく大きくしていたださい。

(メリー・犬)



◎はい、私は、あなた方の形を見てはおりません。

ただただ、あなた方から流れてくる

エネルギーを受けて感じています。

そうですね、形は目に入りますが

私が見ているものはエネルギーだけです。

荒い波動、優しい波動、機敏きびんに感じております。

人間と私との違いは、

波動を基盤にしているかということだと思います。

ともにともに生きてまいりましょう。

ありがとうございます。

(はあちゃん・犬 4歳)





◎うれしい、うれしい、うれしいですよ。

私たちは意識。

やっとあなたは意識を向けてくれました。

お母さんありがとう。

私たちは意識、それを信じていってください。

お母さん、うれしいです。

母親であって母でない、

子供であって子でない、

みんなとともに学んでいこう。

私が産まれた日と娘の誕生間近に月下美人が咲いたので思いを向けようと思いました。

(月下美人・植物)

◎あなたは喜ぶのが下手なんです、
もっと素直になってください。
こうして存在していること自体、
すべてが喜びです。
喜びのあなたであることを
感じ出すことを^{さえぎ}遮っているものに
まず気付いてください。

(マーチー・犬 2歳2ヶ月)



◎交通事故にあつて瀕死の子猫を助けてから、二年半が経ちます。

怪我の障害が酷く、その世話の大変さに、

とんでもない子を助けてしまったと思つた時期もありました。

そんな私の思いとは裏腹に、その子猫から流れてくるものは、

苦しみではなく、ただただ喜びでした。

自分の境遇を、姿形を恨むでもなく、なんの憂いもなく、

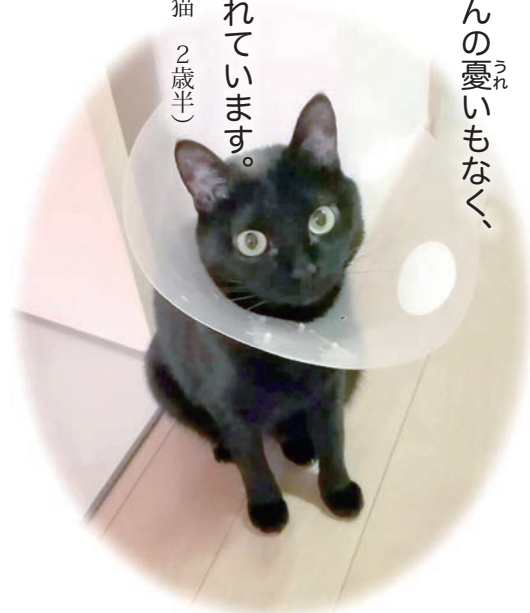
ただ喜んで存在しています。

今、その子を思うだけで、

ありがとこの思いが出てきます。

「何も持たなくても幸せ喜び」を教えてくれています。

(愛ちゃん・猫 2歳半)



◎ありがとう

ありがとう、ありがとう……

こうして今、ともに過ごせる時間を

喜び喜びで過ごしています。

あなた方の肉がどのような状態の時も、

ただ、ただ、ただ、喜びを伝えています。

私は、ともに……ここに肉を持っていますが、

あなた方の肉にとらわれてはおりません。

ああ、うれしい……うれしい、

うれしい、うれしい、うれしい、

ともに過ごせる時間を、ありがとうございます。

(モモちゃん・猫 メス 8歳)



◎私はあなたと暮らしている日々の中で

あなたの波動を感じています。

でも私はうれしいんです。

あなたがどんな思いをだそうと、私はうれしいんです。

それは私が喜びの存在だということを

知っているからです。

うれしい思いが私の中にあるから、

あなたの思いを感じても、

私はうれしくなっていくんです。

ありがとうって思いがでてくるんです。

だから私はいつも喜んでいます。

いつもいつも喜んでるんです。

（ナナちゃん・犬 12歳）



◎はい、私は蠅^{はえ}の肉体を持つ意識です。

あなた方は、私に瞬時に疎^{うと}ましく思うエネルギーをぶつけられますが、私は何も怖くありません。何も苦しくありません。

ただただこの肉体とともにこの空間に漂^{ただよ}っているだけです。

たとえ、あなた方にこの肉体の命を奪われようとも、

私は、何も何も苦しくございません。

ここにこうしていること、

ただ、それだけが喜びです。

(料理中に台所ですっと飛んでいる蠅)



◎ありがとう、

私は肉ではありません。

あなたの心の中にも

同じ思いがあります。

いつも遊んでくれてありがとう。

散歩、楽しかったです。

いつも、あなたの横にいるのが

楽しかったです。

ありがとう……。

あっちこっちへ連れていってくれて、

ありがとう。

（ペコ・猫 二〇一七年六月死亡 11歳）



◎家の裏庭に時々どこからか一匹の猫がやってくる。

飼い主がいなく薄汚れて見るからにみずばらしい。

今日も、どこからかやってきて日当たりの良い庭の真ん中で
気持ち良さそうに寝そべっている。

私が近づいても、私の顔をじっと見たまま動こうともしない。

どこから来たの、名前は？ 問い掛けてみました。

僕は猫、名前も飼ってくれる人も、住む家も僕にはない。

年老いた薄汚いこの僕を、人は野良猫のらねこだと冷たい目を向けてくる。
だけど、そんなこと僕にはどうでもいいんだ。

僕はこの庭が好きなんだ。

明るい太陽の光がいっぱいに降りそそぐこの庭が大好きなんだ。

暖かい日差しが僕を優しく包んでくれる。

この陽だまりの中で僕は大きくのびをするんだ。

思い切り身体からだを伸ばして寝そべって、

ああ、最高、最高に幸せ、何の不安もない、不満もない。

寂しくなんかない。

僕の肉を見ないで、僕を見て哀あわれに思わないで。

僕はこうしていることが、ここにすることが喜びなんだ。幸せなんだ。

なんにもいらない、何も必要ない。

こうして存在していることが喜びなんだ。

喜びだけが伝わってきて、驚きでした、反省でした。

ごめん、ありがとうございます。時々家の裏庭にやってくる野良猫です。

名前も年齢もわかりませんが、年老いた猫のように感じました。

（時々やってくる野良猫）

◎犬はかわいいけれど、好きだけれど、

私の中に秘めたる思いが、いつもむくむくと出てきました。

不足と不満が、ワンと吠^ほえる度に夫に……

「なんで私ばかりこの犬の世話なのか」

怒りしかない思いが苦しい。

でも、私にワン。ひたすらにワン。

何度も何度もこの体験がありました。

ある時「犬は愛」そんな言葉が心に浮かびました。

ワンには、「はい」だ。どうであれ「はい」でした。

よろこんで「はい」でした。

喜びを忘れ去ってきたことを知りました。

(マロン・犬 ヨークシャテリア・オス 二〇一七年七月死亡 17歳)



◎ やんちゃで、^{しつけ}躾がうまくいかず、

どう接していいかわからん！と、叫びそうになった時、
“喜びです”と、伝わってきました。

私は、何事も喜びでしてこなかった。

子育てもおなじだった。

面倒だ、めんどくさいばかりで、

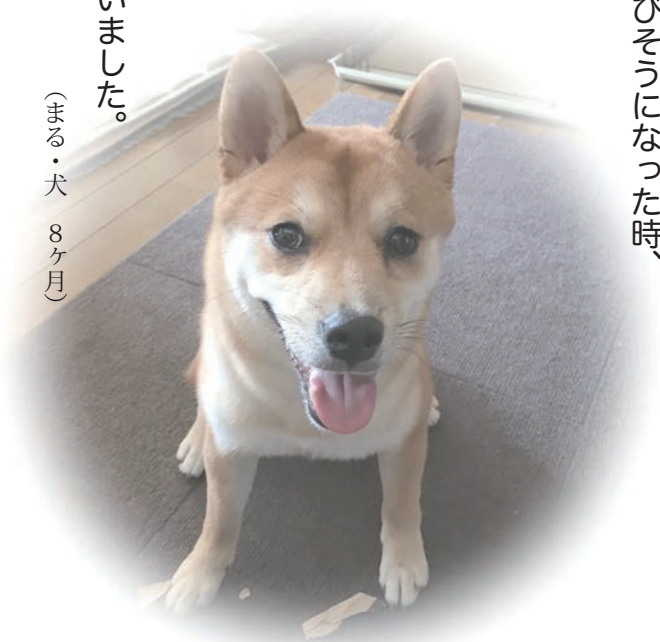
喜びで子育てしてこなかった。

喜んだのは、肉の事柄ばかり。

見たたのも肉のことばかりで、

自分の心を一切見てこなかったと思いました。

(まる・犬 8ヶ月)



◎孫達が飼っている犬、ココちゃん。

部屋へ行くと喜んで飛んできてくれる。

飛びついてきてくれて、

顔をなめたりしてうれしいねと伝えてくれる。

部屋の中をうれしい、うれしいと走り回り、

そして、また飛びついてきて、

顔をなめたりしてうれしいねと伝えてくれる。

ココちゃんによって、

自分の心の間違いに気づいていける。

喜びだけでいいんだと。

喜びを忘れ、ただただ肉の己おのれのままに生きてきた、

自分自身に「ごめんなさい、ありがとう。」

そして、お母さんに生んでいただいて、

今、ここにこうして生かされ存在していることが

どれだけの喜び幸せか。

心から、心の底から

「お母さん、ありがとうございます」と

あふ
溢れ出てきます。

うれしいです。

ありがとうございます。

(ココ・犬 9ヶ月)



◎この親猫は近親相関で生まれ、猫エイズのため片目がつぶれていました。

目はジユクジユクでした。私は汚いと思い、見れませんでした。

娘はそんなことは何も気にせずに優しく世話をしていました。

命は短いだろうと医者も言っていたそうですが、長く生きました。

目もきれいになりました。

その子もエイズが悪化してなくなっていました。

次は犬の大地です。

歩けないから抱っこして外で排尿と排便をさせました。

何も世話をかけることなく亡くなりました。

犬さんも猫さんも、最後は何も食べないで死んでいくのだと思いました。



ふと、いろいろと思い出しているとき、胸が熱くなりました。

猫さんの波動か、何か分かりません。

私は一生懸命に犬の大地に意識を向けました。

それはそれは大変な喜びだと感じさせてもらいました。

私は肉は、かいがいしく世話をしているが、

心が伴^{ともな}っていないと感じました。

とっても冷たい人間だと思わされました。

この頃は、歳のせいで反省もままなくなっていますが、

やるしかない、

他力の心に負けず、

一緒に帰っていかうと願っています。

(ニャーさん・猫／大地・犬)



◎今飼っている犬のくつきーに関しては「かわいがっている」に該当するのか微妙なため、少年時代仲良しだった、近所に住んでいた野良犬のらいぬのチビを思うことにしました。

チビから感じたことは、

素直さ、優しさ、温かさ……

裏切らない友達。

自分に会うたびに喜んでくれる様子、

すべてが愛おしい。そう感じていました。

でも……くつきーも同じなのかな。

そんな思いが分からなくなってしまいました。

疲れている自分がクローズアップされます。



(チビ・犬 一九七六年頃死亡 3歳くらい／くつきー・犬 7歳半)

◎ランちゃんはうれしい時何度も飛び上がり部屋中を走り回り、
からだ
身体中でその喜びを見せてくれました。

すごいな。こんなに素直に喜びを表せるなんてと

感動したことを今思い出します。

今セミナーに集い、波動の勉強の中で苦しんでいる意識が

田池留吉の愛の中でどんどん解放されていく喜びを感じるとき

うれしくてうれしくて

ランちゃんのように

何度も何度も飛び上がりたい気持ちになります。

(ランちゃん・犬 二〇〇五年死亡 12歳)



◎今世、初めて私の家族となってくれた犬はふくちゃん。

そして、今は、おそらく今世の最後の家族になるだろうと思っているのは、二匹の犬たちです。

売れ残って一年。ずっとゲージの中にいて、ブリーダーの知人が「あなたが引き取ってくれないと処分する」といきなり我が家に来たのがチワワのすずちゃん。私を見るなり、おしっぽをいっぱい振ってくれました。ゲージから出されてすぐに玄関で気持ちよさそうに排せつをしていました。

凄く吠える、排せつの失敗は数知れず。排せつをすぐに覚えてくれたふくちゃんと比べては、私は真っ黒な思いばかりを出していました。けれど、変わらなかったのは、私にいっぱいのおしっぽ振りでした。何となくですが、波動らしきものを感じた私は、どんなに部屋がおしっことウンチだらけでもすずちゃんを怒れませんでした。

二匹目は、初めての志摩セミナーを迎えたしばらくしてのある日、またま

た同じ知人が、「三〇万以上の犬だよ。けど、お試^{ため}しでの期間内に次々と返されてきて、何とか助けてよ。安くするから。」で、ブルブルと震^{ふる}えている未熟児のトイプードルを玄関に届けてきました。言わば、この子も売れ残り犬でした。後から送られてきた血統書を見てびっくり。なんと田池先生が亡くなられたその日に生まれた子だとわかりました。名前は娘の提案通り、とめちゃんになりました。

あちこち、たらいまわしになったとめちゃんは、はじめ「ウー、ウー」と夜になると寝ながら噛^かみついてきたことがありました。私の腕は血だらけになりましたが、やはり全く怒れませんでした。

塩川さんが多分ほたるちゃんと関連されて、「トイプードルはおとなしいでしょ?」と私に言われたことがあります、とんでもないです。今や、とめちゃんは暴れ者? で我が家のスリッパや靴は片一方だけが行方不明になりますし、何でもガリガリやったり、いたずらを思いつきやりまくってい

ます。そして、めちやくちや甘えん坊で、私のストーカーでもあります。

すずちゃんもめちゃんも、大好き大好きで私がいるだけでいい、感じます。ありがとう、ありがとう。お互いに伝えあっているその時の私は、本当に幸せだと思っています。

田池先生が「犬は先生です。」とおっしゃっていた通りです。この二匹のワンちゃんは、ふくちゃん同様、ただただ^{すこ}しいなあ、これが喜びなんだなあと素直に思える私は、幸せ者です。

(すずちゃん・犬 オス 10歳)

(とめちゃん・犬 メス 2歳)

Mother's Heart

おかあさん

おかあさん、素直にただ素直におかあさんって呼べますか。そんな馬鹿らしいことできない、今更そんなことをしていったい何の役に立つんだ、そう照れずに、素直になって、一度おかあさんって呼んでください。思ってください。

あなたがこの世に誕生して1歳に満たない頃、つまりゼロ歳のあなたは、安心して嬉しそうにおかあさんを見ていました。そんな目をあなたは持っていました。その目を通しておかあさんを感じていました。

それから何年の年月が流れたのでしょうか。綺麗に澄んだ目を濁った腐った目にしてしまったのはあなたです。本当の自分を忘れ去ってしまった私達ですが、もう一度、綺麗に澄んだ清々しい目を取り戻して、そしてその目を通しておかあさんを感じてみる。できるかできないかやってみてください。私はどなたにもできることだと思っています。

(塩川 香世)

◎あなたを産んでくれたお母さんです。

あなたの願い、約束を叶えてくれたお母さんです。
もっともっと喜んでください。

肉のお母さんは愚かです。あなたの肉も愚かです。

あなたも私もお母さんも、肉ではありません。

意識なんですよ。

お母さんの意識、お母さんの思いを感じてください。

ただただ喜びです。ただただうれしいだけです。

今世、あなたを産んでくれたお母さんの思いに

素直に^{こた}応えていってください。

お母さんはただただ喜びでした。

(ボポ・犬 二〇一六年死亡 8歳)



◎お母さん、広がってゆく。

この温もりの中で私は、ああ肉体をいただきました。

私の肉体は、生まれてしばらくしてなくなることになりましたが、私はお母さん、お母さんくと

お母さんと呼ぶ思いの中で、

ただただ広がってゆく心ひとつで生きておりました。

そして今もお母さんの中で生きております。

形は消えましたが、この心、確かにございます。

(のんちゃん・猫 一九九五年死亡)

◎お母さんって優しいなあ。お母さんって温かいなあ。

お母さんってうれしいなあ。幸せだなあ。

お母さんを思うと、こんなに優しい温かい思いを感じます。

植物に思いを向けるとお母さんへの思いが出てきます。

お母さんの思いが伝わってくる。

ただただ優しいし、うれしいし、温かい、

そんな思いが湧いて出てきます。

そこにいるだけで優しくったし、温かかったし、うれしかったです。

何もなかった。何もないけれど確かにあった。

お母さんの優しさや温かさ、そしてうれしい思い。

何もないけれど確かにあった。

お母さんは何も言わないけれど、けれどそこにはあった。

確かにあった。

優しい、温かい、うれしい思いが……ありました。流れていました。

お母さんは、なんにも言わなくてもよかったんです。

お母さんは、なんにもしてくれなくてもよかったんです。

ただただ、お母さんから流れる思い、

優しさ、温かさ、うれしい思い、

そんな優しさに、私が気づけばよかった。

それだけでした。

(家で育てている観葉植物)



◎故郷の桜を見るには

早い時期だと思っていました、

今年の桜は例年より開花が早く、

満開の桜を見ることができました。

電車の中から懐かしい桜を見たとき、

何だかうれしくて

涙が溢^{あふ}れて仕方がなかった。

故郷の桜はお母さんでした。

お帰り、お帰りと、

私を待っていてくれていました。

母の思い、うれしい、

ありがとうだけでした。

(故郷の桜)



◎はい、僕はお母さんから生まれました。

幼くしてお母さんから引き離されました。

でも僕は、いつもお母さんの意識とひとつです。

僕はいつもお母さんの温もりに包まれて存在しています。

とても温かくて優しく何もない静かな世界です。

広い広い世界です。僕はとてもうれしいです。

僕だけではありません。

あなたもその世界に存在しています。

みんなひとつです。

いつもどんな時でも、

お母さんに抱かれていることを

心に思い起こしてください。

(次郎ちゃん・ゴールデンハムスター 二〇一五年七月死亡 2歳半くらい)



◎お母さんを思う瞑想が終わって目を開けると、

気持ちよさそうに寝ていたチビ太が

目に入りました。瞬間的に、

「あ、この子はお母さん（の波動）を知っているんだ」と思いました。

頭ではなく、直感的にという感じでした。

そしてチビ太に向けて「お母さん」と思うと

「知っています。僕は知っていますよ」

と優しい温かい思いが流れてくることを感じました。

なんとも言えない本当に優しい波動でした。

◎瞑想で田池留吉の目を見ると、

「くそつたれ、くそ田池」という思いが飛び出してきました。



叫んだり、うなったりしていると、

チビ太は私から離れていきます。

しばらくして、「お母さん」という思いに少しずつ変わっていくと、
またすり寄ってきます。

目を開けて、チビ太の顔を見ると、心が叫びました。

「この目で見るというのか。この目で田池留吉の目を見るというのか。」

この子の目はゼロ歳の自分の目でした。

この目でまっすぐに田池留吉の目を見つめてください。

そうしたら見えてきます、伝わってくるんです。

田池留吉の目はまっすぐに見つめてくれています。

「あなたは愛です、ひとつです」と。

◎広がっていく思いを感じました。

ゆったりとした、何もない思いでした。

そしてラグには、犬だとか、人間だとか
そういう感覚がないようにも感じました。

私がラグを見る感覚と、

ラグが私たちを見ている感覚は

違っているんだなあという感想でした。

意識の世界に生きているんだなあ、

これが自然なんだなあ。

（ラグ・犬 推定11歳）



◎愛犬を通していつも思うのは、

産んでくれた母犬、

お母さんの思い、存在です。

愛犬はその思いの中に生きていると感じます。

だから、そばにいて言葉を交わす訳ではないけれど、

一緒にいる安心感で温かい思いになってくる。

一緒にいることがうれしくて、喜びで、

空気のような存在であり、

それでいて、凛^{りん}とした思いを感じます。

一点だけをしっかりと見つめて存在している。

小さな体からは想像できない

強さと優しさを感じます。

(ちっち・犬 12歳)



◎増えたギボウシの中から一株を掘り起こして、

知人に渡す時に思いを向けました。

喜んで他の草花たちと一緒にいた中から

そこだけが抜き取られてしまった……。

その風景を見て寂しい思いが湧きあがってきました。

その時にギボウシに向けました。

お母さんありがとう、

ありがとう、ありがとう、お母さんありがとう、

とても明るくて爽やかでした。

(ギボウシ・植物)



◎ 苦しい思いをノートに書いている時、愛犬に思いが向きました。

私はいつもあなたに

真^まっ直^すぐに真実を波動で伝えています。

私の肉ではなく、

私の思いを

もっともっと優しい思いで受け取ってください。

そんな感じがして思わず涙がこみ上げてきました。

形で見えてきた、

意識、波動として見ていなかったと思いました。

(ララ・犬 10歳)



◎庭の木が、数本枯^かれはじめて

蟻^{あり}の巣^{あり}が至る所にあることに気付きました。

お舅^{しゅうと}様まで蟻に刺されて、蟻の始末に迫られ殺虫剤を散布しました。

石をめくれば、驚いた蟻が卵^{かか}を抱えて右往左往^{うおうさおう}し始めました。

それを目掛けてシュッシュッシュッ！

逃げ惑^{まど}う蟻にシュッシュッシュッシュッ！

そんな中なのに蟻に向ければ心が広がっていく……

蟻の世界は意識の世界。

蟻の世界は田池留吉の世界。

生も喜び、死も喜び、それしかないと伝えていただきました。

◎ 私たちは、あなたたち人間のように

自分たちの違いを比べて苦しんだりしません。

私たちは肉ではありません。意識です。

境目のないひとつの世界に生きています。

喜びで生きています。

自分を表したり、

色々頭で考えたり、

心配したりして

自分を苦しめることはしません。

すべてを^{ゆた}委ねて生きています。

(まーちゃん・猫 16歳)

(ちゃこちゃん・猫 4歳)



(ちゃこちゃん)

(まーちゃん)

◎十七年間ともに過ごした

ライオンに心を向けると、

「愛」以外の何も出てきません。

本当に優しい、いつまでもいつも、

私を待っていてくれた、

私をお世話してくれた、猫でした。

朝になると、髪を爪でといて、

起こしてくれました。

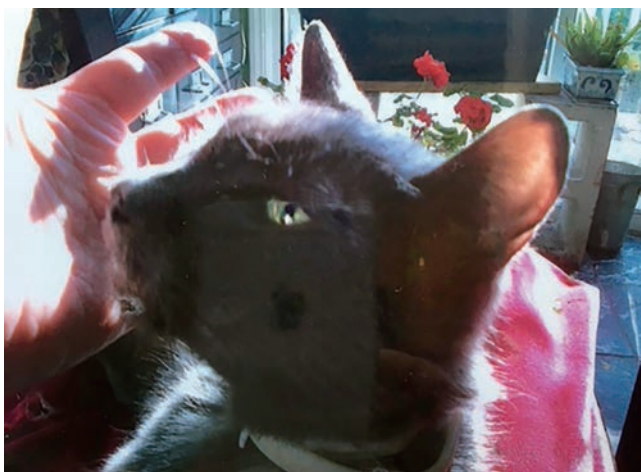
特に、イレギュラーの早起きの、

必要のある時など、

すべてを、分かっていたました。

以心伝心、でした。本当にすごい存在でした。

ご飯も、私が食べるまで、待っていていました。



一緒に食べ始めました。

帰ってくるのをいつも玄関で、出迎えてくれました。

本当に、ありがとう!!

十七年ともに過ごし、今はその肉体を持っていませんが、

死んだとはいえ、波動では、

その肉体があつた時と同じように、

「愛」しか伝わってきません。

ライオンは、本当に優しい優しい、「愛」そのものでした。

そして、死とは……肉体があってもなくても同じ波動です。

意識こそが、私たちの存在であることを証明してくれています。

ありがとうございました。

(ライオン・猫 17歳)

◎あなたは愛です。

あなたは温もりですよ、あなたは意識ですよ、

あなたは初めから幸せですよ。

気づいてください。優しいあなたになってください。

意識です、私たちは意識です。

自分はチャイがなくなった二〇一二年、寂しくてどうしようもなかったです。

当時、死後すぐにチャイに意識を向けさせてもらいました。その時は

「お母さんの反省をしてください。母の温もりを思い出してください」

と伝えてくれたのを今でも憶えています。

寂しい思いを抱^{かか}えた自分に伝えてくれました。

たくさん伝えてくれてありがとう。ありがとう。

出会えてよかった、本当にうれしい、ありがとう。

（チャイ・犬 マルチーズ 二〇一二年死亡）



◎私はアメリカのセミナーですごい経験をさせてもらいました。
会場の付近の花が、

みんな、うれしいうれしいよって喜んでいたんです。

きらきら上を向いて笑っていました。

日本に帰って日にちが過ぎても

木々に、花に意識を向けると、

喜んでいたり寂しそうにしていたり、

これは自分の心の状態を映してくれているんだと思いました。

主人が、花や木の世話をした後、

すぐく元気になったりするのを見ると

やはり主人は優しいんだと思っています。

(植物)

◎愛犬は私に全託してくれます。

警戒も、疑いも、戦うこともしません。

ゼロ歳みたいです。

自然って、いつでもどこでも

「お母さん」って呼べるような素直さがある。

だから何とも言えないやさしい波動が伝わってくるんだなあ。

ここまで委ねられるってすごい。

私とは正反対。

でも、「同じだよ、ひとつだよ」。

一点の曇りもなく真っ直ぐな目で伝えてくれます。

いつでもお母さんに帰れる、

それが本当の私たちだと伝えてくれています。

(ほたる・犬 12歳)



◎私が死んだら飼っていいよ、

そう言っていた猫嫌いの姑しゅうとめさんが亡くなり、
入れ替わりに家族になったとらお。

とらおの波動も分からず好きが高じて支配欲となり、

私になつかなければ、お前などいらぬ！と

冷たい寂しい思いが出てきて自己じこけん嫌悪。

そんな時、里親さんから頂いた我が家に来る前のとらおの動画。

姉妹猫とじゃれ合うとらお、そのとらおを抱き寄せてなめる母猫。

どの子猫も同じように大切になめ続ける母猫。

何とも言えない優しい思いが伝わります。

母猫からとらおへ繋つながる優しい思いで、

私の寂しい思いも抱きしめていきます。

(とらお・猫 1歳)



◎怒り？

怒りは、ないですよ。

お母さん、お母さん、お母さん……

お母さん……、優しい……優しい……

お母さん、ああ、どこまでもどこまでも広がっていく……

優しい……優しい……優しい中にあります。

(はあちゃん・犬 4歳)



◎マーティーが亡くなって十年。

当時は悲しくて寂しい思いがいっぱいでした。

でも、学び始めてからマーティー（意識）を思うと
伝わってくる思いは優しい思いでした。

寂しくて悲しんでいたのは肉の私の思いで、

マーティーは生きていても死んでいても、

何も変わらずただ優しい思いだけを伝えてくれています。

肉じゃないよ意識だよって伝わってきます。

そして素直って思いを伝えてくれます。

ありがとう。

（マーティー・犬 二〇〇八年死亡）





Love

愛

愛。愛が分かることは難しいです。いいえ、本当は簡単なんです。矛盾^{むじゆん}していますか。少しも矛盾していません。愛が分かることは簡単なんだけれど、自分の立ち位置、価値基準、つまり生きる基盤を変えることが難しいから、愛が分からないだけです。基盤を変えれば簡単に分かってしまいます。ただし、本物の愛は偽物^{にせもの}の愛と違って、無限の世界のものだから、分かるという言葉自体、ナンセンスです。

(塩川 香世)

◎愛は、肉で推し量れるものではありません。

愛は、よろこび、愛は広がり、

どこまでも、どこまでも、ただただ広がりゆく、

広しい、広しい世界です。

おかあさん、おかあさん、

どこまでも、どこまでも、

どんどん、どんどん限りなく際限なく、

どこまで行くのでしょうか……

そんな思いとともに心は広がってゆく、

それが心地よくて、よろこびで、うれしい。

(クロ・犬 二〇〇二年死亡 15歳)



◎ 私たちには愛という言葉はありません。

愛っていう特別なものはありません。

そのまま自然な状態でいる時が

愛と呼ばれているものでしょうか。

ナナちゃん、

自然な状態ってどんな状態ですか。

ありがとうございます。

うれしいんです、いつもうれしいです。

(ナナちゃん・犬 12歳)



◎私たちは愛のエネルギーです。

ただただ喜びと温もりだけが広がっています。

それ以外の、苦しみや悲しみ、

寂しさや癒^いされたい等々の思いを向けられても

私たちには、ただただ喜びと温もりだけが

広がっています。

何もありません、何も……。

ただただ喜びと温もりの中に

私たちは存在しています。

（はな・犬 二〇一七年一月十七日死亡 17歳5か月）

◎ラムちゃんに向けて愛を思うと、

ずっとずっと私は愛です、と伝えてきました。

私とあなたは同じなんですよ。

一緒にいた時間、肉を置いていった今でも、

私は愛そのものですよ、あなたもですよ、と

伝えてくれていると感じます。

ラムちゃんの肉があったときには、

まだ私には感じる事ができなかった思いです。

今でも伝え続けてくれています。

ありがとう。ありがとう。

ラムちゃん、ありがとう。

(ラム・犬 二〇〇八年死亡)



◎ 私たちは愛です。愛です。愛です。

死んでも途切れることなく

永遠、無限大にただ喜び、

ただ温もりで存在し続けます。

途切れることがないから愛だと言えるでしょう。

愛だったり、憎^{にく}しみだったりすることは決してありません。

例え、美しく実^{みの}らなかったとしても

私たちは、ただ喜び喜びの波動を発信し続けます。

腐^{くさ}った私にも意識を向けてください。

(ヒメシヤラ・庭木

樹齢20年)

◎うれしい うれしい うれしい……

うれしい うれしいね、うれしいね……

優しい 優しい 優しいですね……

どこまでも、どこまでも広がっていく

どこまでも、どこまでも……

どこまでも、どこまでも。

ああ、私たちの世界です。

(クレマチスの花卉が落ちた後のめしべ)



◎私の部屋から手を伸ばせば

届きそうなビワの木があります。

今は、いろんな鳥たちが実を食べにきて

チュンチュン、ピーピー賑やかです。

やがて枯れ、また花を咲かせ実をつけて枯れ、

また花を咲かせ実をつけて枯れ、

自然界の流れのまま存在している。

この学びと同じでした。

欲の思いもなく、たんとんと

「田池留吉、アルバート、母なる宇宙」に思いを向ける、

その繰り返しかけでした。

そう思える私が愛しいです。

(ビワの木)

◎私たちは人間のように、怒りや憎し^{にく}みはありません。

ただただ、毎日、太陽の光を浴び自然の風に吹かれ、

そこに存在していること、存在している今、

この時を喜んでいます。

怒りや憎しみ、寂しさなどに心を揺らされることもなく、

そこに存在していることこそがすべて。

私たちは常に愛を流しています。

あなたは愛、私も愛、ひとつです。

このメッセージが届いていますか。

存在していることだけが喜び、喜び。

そして、私たちは意識、永遠の命、愛の中にひとつ。

このメッセージを常に発信し続けています。

（住み始めた頃に植えた庭の木）

◎可愛かわいがっているという思いを見た時、

私は可愛がってないなあ、と思った。

可愛がっているフリはしている。

なんで、可愛がっているフリをするのだろうと思った。

可愛がっていなかったら、

人に、「なんだ、あいつ」と冷たい思いを向けられる。

くつきーを可愛がっているところを相手に見せて、

相手にも自分の犬を可愛がらせる。

可愛がっているところを見てもらって、

可愛がっているんやなあ、と、

相手から優しい目で見てもらえることが愛だと思っている。

その愛を、欲しいと思っている自分があった。

私には思いがない。私が作ってきた世界。
肉も素直になっていこう。

田池先生に「犬を飼い」と言われ、

淀川^{かせんじき}の河川敷で、保健所にどうしても捕^{つか}まらない

野良犬^{のらいぬ}のお母さんから生まれた犬をもらってきて、

七年半が経^たちました。

生まれて一ヶ月くらいの子犬だったので、

今の年齢は7歳です。

くつきーという名前は、

その頃、幼稚園生だった娘の菜花^{なのか}が付けました。

(くつきー・犬 7歳)



◎家族にも出せない思いを出させてくれます。

最近も食事ができなくなり、病院へ行くことになりました。
治るかなという不安。このまま亡くなるのではという恐怖^{なお}。

お金はどれくらいかかるかな、治療は長くなるのかな、など。
でも当の本人はいたって平気。

痛そうでも、苦しそうでもありません。

自分中心な家族なのでマロンがいないと、
声を聞くことはほとんどありません。

まあテレビに向かったの聲は評論家以上ですが。

家族が出している思いにも、

「私です、タイケトメキチ」を思える今はうれしいです。

(マロン・猫 11歳)



◎この犬が我が家に来た意味、

この犬が来てから我が家で起きたことを思う。

あの目が私の心から離れない。

受け入れてきたと思っていた私でした。

あの目の中で私が受け入れられていました。

ここに思いを向ければ、

偉そうな自分しかありませんでした。

この犬に私のすべてをぶつけてきました。

どんな私にも寄り添^そい、

ただひたすらに伝えてくれていました。

それが「愛」でした。

「思い」でした。愛は波動でした。

(マロン・犬 ヨークシャテリア・オス 二〇一七年七月死亡

17歳)



◎言うこと聞かない！

思い通りにならない！

私が一番でない！

そんな奴はいらん！

……と、すべてを切り捨てるエネルギーを発した。

愛犬に限らず、誰に対しても同じ思いで接してきた。

すべて自分の思い通りに……と。

子育ても同じ思いでしてきた。

すべて自分の都合のいいように……

自分の思い通りにならないものは、

すべて切り捨ててきました。

(まる・犬 8ヶ月)



◎ 主人が全責任を持つから、と

飼い始めた大型犬に怒りしか感じない。

病気になってしまった主人は何の世話もできない。

散歩が苦痛。死ねばいいのにとと思う。

臭く、毛も抜ける犬の存在が苦痛。

時々意地悪をしてしまう。そんな自分が許せない。

犬からは温もりしか伝わらない。

自分勝手に、自分本位な主人を、

こんなに嫌っていたのだと愕然とする。

主人の代わりに犬に八つ当たりする

薄っぺらな自分が悲しい。

でも今、少し犬が可愛いと思う。

(ハク・犬
10歳)



「今日、自分で初めてシャンプーしてあげました。」



Healing

癒し

あなたは、自分を癒^いしてくれるものを今も探していますか。
今も求め続けていますか。

結論です。自分を癒^いしてくれるものは探しても見つかりません。求め続けても徒^{とろ}労に終わってしまいます。

そうではなくて、あなたの外に探す思い、外に求める思いを弱めてください。

一度弱めてみて、そしてなぜ自分は外に探したり、求めたりするのだろうかと考えてください。

外に探し求める癒^いしは一時的なものでしょう。癒^いされると思っても、ではそれがあなたの目の前からなくなれば、あなたの心にどんな思いが上ってくるのでしょうか。目の前にあれば癒^いされる心は、いったいどこにいったのでしょうか。

そんな不確かな癒^いしではなくて、いつも癒^いされている状態であればいいと思いませんか。愛もそうです。癒^いしも本物を知ってください。

(塩川 香世)

◎毎朝、あなたが私たちに、

「おはよう。ありがとう」の思いを向けてくださるとき、
私たちも喜んであなたに、

「おはよう。ありがとう」の思いを返しております。

いつも私たちに向けてくださる喜びと温もり、
そして優しさと笑顔を忘れないでください。

生きとし生ける無数の植物も、

あなた方人類と同じ愛の波動の中で

生かされ存在している意識です。

ともに喜び喜んで存在してまいりましょう。

(アサガオ・クレマチスなどの植物)

◎私は愛です。

あなたのために 咲いているではありません。

なつかしいという思いはありません。

ただ 自然の中で芽をだし、

茂り、^か枯れていきます。

このぎぼうしは約五十年ほど前の春、見た時、心が広がりました。

それから私とともにいます。しかし心が広がったのはその時だけです。

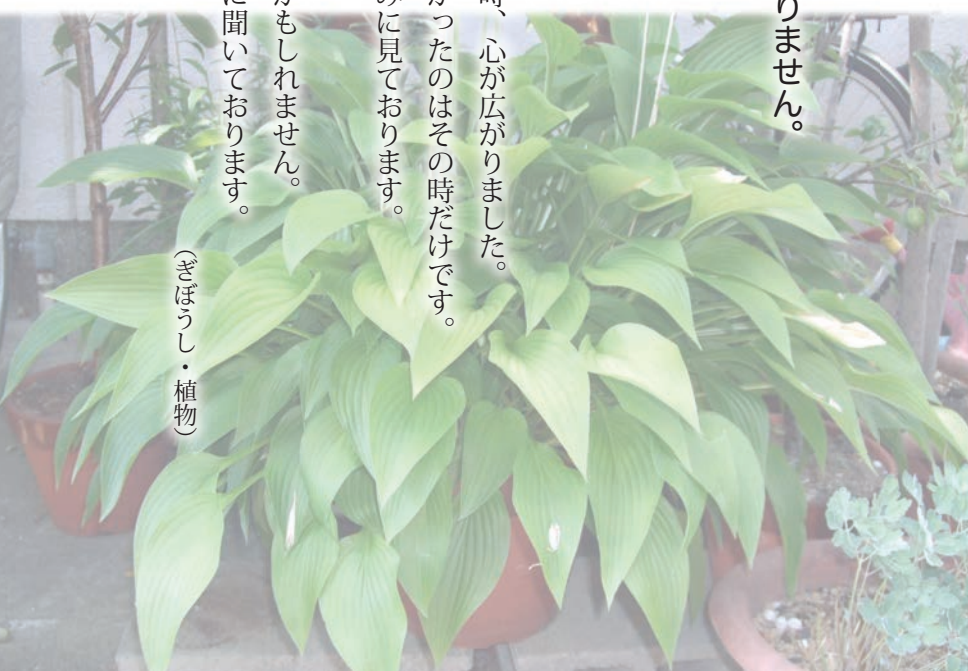
毎年、芽がでて大きく葉を広げるのを楽しみに見ております。

一番大切に思っている植物です。

思いは、そっけないですね、私の今の思いかもしれません。

このぎぼうしは母が山で採取してきたように聞いております。

(ぎぼうし・植物)



◎窓の外の小さなベランダのスペースに、
けっこう大きなハイビスカスの木を鉢はちに植えておいています。
そのハイビスカスに意識を向けてみると、
とても暖かい波動が伝わってきます。

私は喜びで咲いています。

道行く人や車、自転車の人もときどき見ていきます。

忙しい人や、ただ、通り過ぎる人もいますが、

私は喜びです。

私が咲かせる花を目にして、
ほっとしている人もいます。

そんな時、私もその人に話しかけています。

（ハイビスカスの木）



◎愛犬が死に直面した時、

中から衝撃的な悲しみが突き上げました。

私を癒^いしてくれた温もりと優しさが消えてなくなってしまう。

失いたくない、私の前から消えてなくならないで。

寂しさに狂いました。

お母さんの瞑想をしました。

狂っている心が落ち着いていきました。

私はこの心で求^{もと}めていたんだ。

愛犬を癒^いしとして捉^{とら}えていた間違いに気付きました。

同じ温もりを思い、ともにあることを喜んでいく、

それがこれからの私と愛犬との時間です。

(ほたる・犬 11歳)



◎今から十数年前、しばらく眠れないことが続いた。

中から声が聞こえてきた。

どうしてよいかわからなくて、心療内科にかよった。

二、三か月が過ぎ、なんとなく花を見たくなった。

当時、藤の花が満開だった。

ただきれいというだけではなく、優しさがあった。

頑張れと励まされているみたいだった。

ありがとう、存在を主張していない、^{そび}聳えつつあっていない。

ありのままでもいいんだ。

心がほっとした。何もいらぬい、

花があるだけでよかった。

お母さんの温もりみたい。

主人はいろいろな花を

見に連れていってくれた。

桜、藤、百合……。

花は私を受けとめてくれる。

不安定な私を受けとめてくれる。

ありがとう。

当たり前すぎてわからなかったが、

当たり前ではなかった。

私が間違っていたのだ。

花のように

自分を受けとめていこうと思う。

(花)



◎あなたが求めている癒しいというものを

私は求めることはありません。

湧わき上がってくる喜びこそが

癒しと言えるのではないのでしょうか。

あなた方が私の形に向けて求めてきた癒し、

それはあなた方の寂しさからくるものではないのでしょうか。

あなた方が私の肉しに執着しゅうちゃくする時、

私はその心は何ですか、とただただ優しく伝え続けていました。

肉などなくても、私はこうして語っております。

語ることができます。

癒し、心の中から湧きおこるものです。

◎お母さん、お母さん……

お母さん、お母さん……

優しい思いの中で、

ただただお母さん、

お母さんっていう

思いだけが伝わってきました。

(トラ・猫 二〇一五年九月死亡 20歳)



Death

死

生まれてきた私達はいつか死んでいきます。死は避けられないことです。ならば、死を恐怖や悲しみとして感じていくのではなくて、死を喜びとして感じていければ幸せなことだと思いませんか。今世こそ、ぜひそうしましょう。

何度も生まれてきて何度も死んでいった私達です。死の恐怖も悲しみも呪いも恨みも、たくさんたくさんその心に埋もれています。

今世こそ、その心を自由に解き放していきましょう。確かに親しい方達とのお別れ、つまり死は悲しい寂しいことでしょう。ただ、私達が忘れてはならないのは、私達は死んで終わりではないこと、肉体という形はなくなってしまうけれど、意識、波動、エネルギーとしての私達は永遠に存在するという、そしてその存在の仕方が最重要課題であるということです。

(塩川 香世)

◎私はチコ、お兄ちゃん、心に向けてくれてありがとう。

すべてが喜びです、すべてが愛です。

あなたも私も一つです。

私が死んだとき、お兄ちゃんは

自分の与えた食べ物が原因で死んだと

自分を責めていましたね。

私は喜びで喜びで死んでいきました。

何度も何度も自分を責めていたお兄ちゃん。

そんなお兄ちゃんに、意識で、

何度も何度も喜びで死んでいったことを伝えましたね。

肉は抜けながら、目を閉じれば



喜びが伝わってくると言っていたお兄ちゃん。

ありがとう、お兄ちゃん、

みんなと楽しく暮らした十年間喜びだけでした。

ありがとう、死は喜びです。

誰も恨まず、誰も憎まず、ただただ喜びだけで死んでいきました。

自分を責めないでください。私は喜び、意識です。

肉は人間と犬の違いだけで、

動物も人間も自然界すべては意識です。

皆、そのことを忘れているだけなのです。

肉に翻弄され、肉に生きるのはやめていきましょう。

死は喜びです。私たちは喜びです、すべては一つです。

私もまた二五〇年後まで何度か転生てんしやうします。

肉ではない意識であることをお伝えする

そのことが私たちの仕事、それがうれしい。

転生するたびに、肉が自分だと思っている人間に、

ただただ喜びだけを表してきました。

喜びを伝えるのに言葉はいりませんでした。

幸せを感じるのに何もいりませんでした。

ただ存在していることが喜びでした。

二五〇年後、必ず会いましょう。

ありがとう、お兄ちゃん、田池留吉、アルバート。

私たちは意識、一つです。

誰も憎にくまず、誰も恨うらまず死んでいったチコ。



死ぬ前何度も手術を受けたチコの体は苦しそうなのに、

僕が雑に食べ物を与えたのが原因なのに

そばによると動かない体で尻尾^{しっぽ}をふって喜んでくれました。

死んだときは肉はただの抜けがらでした。

目をつぶると、チコからはありがとう、ありがとうの

喜びの思いだけが伝わってきました。

肉と意識の違いを感じました。

すべては意識、喜びなんだと、ぬくもり、喜びに言葉はいらない、
波動だけがすべてなんだと改めて教えられました。

ありがとうございました。

(チコ・犬 二〇〇六年死亡 10歳)

◎六年前に亡くなった愛犬のモモに思いを向けた瞬間、
出たのは苦しい思いでした。

苦しくて、異語も出せないくらい苦しくて、驚きました。

しばらくすると、「寂しい、寂しい」という思いが

一気に出てきて、

ずっと寂しい思いを隠してきたと気付きました。

では、モモの意識はどうだろうと思いを向けると、

ただただうれしいの思いが出てきました。

うれしかった。

ありがとうの思いがようやく心から出せました。

モモ、ありがとう。

(モモ・犬 二〇二二年死亡 12歳)



◎形を見ないでください。形を見ないでください。
私たちは、死んでも生きていても同じです。
死んでいても生きています。

肉体が動かなくなった。ただそれだけなんです。
死をどのように受けとめていますか？

死んだ人をどのように思われていますか？

私たちは何者ですか？

そのことを問いかけていってください。

これから、喜びで問いかけていってください。

私はあなたに伝えていきます。今も伝えていきます。

あなたとともに存在する意識です。

ありがとうございます。



◎生まれることも死んでいくことも喜びです。

本当のことを捨て去った、

その時からずっと苦しんできました。

本当は、あなたは優しい存在ですよ、愛ですよ。

だから死後の自分の思いを聞いてあげることができる。

だから肉をもって今こうして学んでいます。

どうぞ、どうぞ、ともに帰ろうと

呼びかけていってください。

あなたの思いを、あなたが聞いていってください。

ともに学んでいきましょう。

私はあなたの学びの友です。

ありがとう。

(ティナ・犬 キャバリアキングチャールズスパニエル 二〇〇四年死亡)

◎私は今もここに存在しています。

あなた方のそばにいます。

私が肉体を離れたその時にお伝えした通り、

喜び喜びの世界で、ただただ私は広がっていきます。

その中でありがとうございます、

肉持っていた時と変わらず、

ありがとうございます、ただただ伝え続けております。

怖くないですよ。死ぬこともまた喜びです。

肉とともにあった時間、本当にありがとうございますございました。

今もそばにいます。

あなた方も感じてください。

私は喜びの中で語っております。

（フンちゃん・猫 二〇一八年三月死亡 16歳）



◎今でも思い出さない時はありません。

ふくちゃんは、小さかった娘が、母子家庭になったばかりの時に、ペットショップの前で、普段やらないのに、「買ってー買ってー」とひっくり返ってふくちゃんをおねだりした時からの出会いでした。

すごい高価な金額を出して小さなアパートに連れて帰りました。

どうしてこんなにも尻尾しっぽを振るんだろうと思いました。排泄もすぐに覚え、全くしつけが不要だったふくちゃん。やがてペットホテル代をけちる為に、ふくちゃんも一緒に車でセミナーに行くようになりました。

田池先生が、メチャクチャ可愛かわいがってくださるようになりました。

セミナーの発表前には、必ず、車の周りを喜んでクルクル回っていたふくちゃん。そのふくちゃんが、十七歳を前に、急に歩かなくなりました。

「死」が近づいていました。

私は、「嫌だ、死なんなんて」だけでした。その中身は、ふくちゃんとお別

れというよりも「死」は怖くて怖くてたまらなかったと、今、素直に言えます。私に「死への恐怖」をはっきりと教えてくれたのでした。

やがて、私の腕の中ですごい痙攣けいれんとともに、最後は一回だけ「フー」と深呼吸をして息を止めていきました。

与えるだけ与えてくれた存在。未だに自信がありませんが、ふくちゃんと思うとただただ優しく、ありがとう、またねと感じられます。これが波動なのかと思ってしまっています。

ふくちゃんの肉体はなくなりましたが、呼ぶといえるのです。

「死」は怖くもなんともないよ、

ちゃんとずっと一緒にいるよと、教えてくれています。

「死」と真向いになるきっかけを作る為に、

私の家族になってくれたふくちゃんでした。

(ふくちゃん・犬 二〇一〇年二月七日死亡)

なきから しょうぎやくじょう
◎亡骸を焼却場へ置いてきました。

夫婦でオーリングをしたら、

「もうここにはいません」と告げていました。

いつもの川沿いの散歩道へ出てみました。

早春の爽やかな風^{さわ}にのって

「十七年間ありがとう」と

ベバリーが語りかけてきました。

「ベバリー、愛をたくさん、たくさんありがとう」

ふたりで叫びました。

とても暖かくて優しい「喜び」を感じました。

（ベバリー・犬 メス 二〇一七年三月十三日死亡 17歳）



◎ありがとう。私はこの肉をおいていきます。

ただそれだけです。あなたは私に何を望んだのですか。

私はあなたに何も望んでいません。

私はただこの肉をもらい、その時間を喜びで過ごし、

そしてこの肉を喜びでおいていくだけです。

あなたに何も思っていないせん。

あなたは何を思っているのですか。

私は、ただありがとうと思っています。

それが、あなたの思う、

あなたへのありがとうとは違うと思います。

ただただ喜びです。ありがとう。ありがとう。

（ボン・猫 二〇〇八年四月死亡 16歳）



◎ 私たちには死というものはございません。

死は、あなたたち人間が創^{つく}り出したものです。

私たちはいつも一緒です、お母さんのなかに一緒です。

心の中にいつもお母さんがあります。お母さんとともにあります。

死を創りあげた人間はとても苦しい存在になってしまいました。

死は喜びだったのに、死を苦しみという方へと、

肉を離すことが苦しみだという思いに固まっていきました。

死は喜びなんです、死というものはないんです。

私たちはいつも一つだからです。

いつもお母さんと一緒なんです。

お母さん、私たち一緒だよね、お母さんありがとう。

私たちはいつもそんな思いでいます。

（死にかけたメダカ）



◎私は今喜びです。

私は今、喜びの中に存在しています。

あなたは問いました。死について問いました。

私の中には、あなたが問うているような死は、ありません。

私は肉を離しましたが、

それはどういう問題でも私にはありません。

ああ、うれしいだけです。

今もこうして喜びの中に存在しているだけです。

ありがとうございます。私と話をしてくれてありがとうございます。

喜びに広がっていく、私はそういう存在です。

ただ、それだけです。

（ヤンちゃん・猫 二〇一八年二月死亡 5歳）

◎愛犬は亡くなる前日、けいれんで足をバタバタさせて、

肉は大変な状態なのに、ああこの子は喜びで走っている、
駆け回っているという思いがしたんです。

伝わってくるのは苦しい思いではない。

この子は生きていようが死んでいようが

肉体がどんなであろうが、何ら変わりはないんだ、

同じなんだと思いました。

悲しくて、寂しくて、泣いているのは私で、

「これからお母さんはどうしたらいいの」と愛犬を思ったら、

「お母さんは心を見ていってください」と伝わってきました。

暗い思いではなく、カラッとした思いでした。

（ラム・犬 二〇〇八年死亡）

◎「死とは何ですか。」

私は生きています。私を感じてください。

私はずっとあなたとともにいます。幸せです。

私は、今は肉はありませんが、

こうしていつもあなたにメッセージを送っています。

私に心向けさえしてくだされば、

私を感じ、私と対話できます。

私には死はありません。

死、それは人間がつくった概念です。

私はずっと生きています。

あなたも同じです。

私たちはずっと生き続ける存在です。喜びのエネルギーです。

(ララ・犬 二〇一三年一月二十九日死亡 11歳)



◎ 僕に思いを向けてくれてありがとう。

はい、僕たちに死はありません。

死とは人間がつくった境目です。

僕たちには、肉体があるかないかという境目はありません。

肉体があるときも肉体がない今も、

僕は喜びの波動を流しています。

僕は意識、エネルギーです。

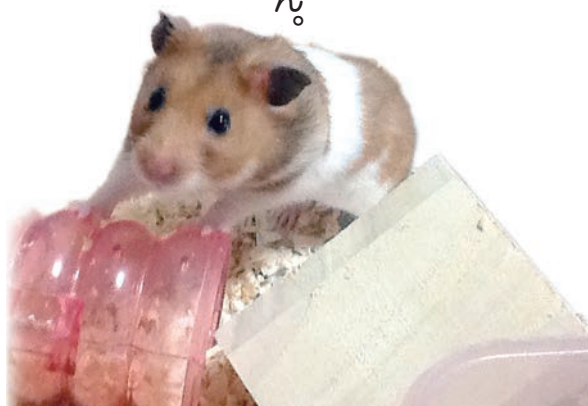
いつもいつも、お母さんの温もりに抱かれています。

僕はとてもうれしいんです。お母さんとひとつです。

これからずっとずっと、

お母さんの温もりの中で永遠に存在しています。

(次郎ちゃん・ゴールデンハムスター 二〇一五年七月死亡 2歳半くらい)



◎十年（六年）ともに暮らしたうさぎ達が病気になる、

亡くなる時、あの子達からは

とても暖かい思いを感じたのですが、

自分の、いなくなってしまう寂しさ、悲しさ、

あの子達を返してほしいという、

肉にとられる思いを感じました。

新たに、家族として二羽のうさぎを迎えると、

姿は違うのですが、あの子達が戻ってきたと感じ、

ずっと肉を取り返そう（生き返らせよう）としてきたけれど、

違うのではないか、

何度も自分の思いをうさぎ達と確認していつてみます。

（アルトとステラ・うさぎ 二〇一六年二月と十月に死亡）

（ローヴ、シエル・今のうさぎ 1歳と2歳）



シエル



ローヴ



アルト、ステラ

◎犬を飼う、とんでもない話でした。

潔癖症けつぺきしょうに近い私が室内犬を飼うなど、考えもしないことでした。でも、飼いたいと思いました。

育てるのは大変でした。

何度も何度も飼い主に返そうと思いながらの日々でした。

お母さんはこうして私を育ててくれたんだなあ、

どうやって育てていいのか分からなくなったり、

この子さえいたら何もいらないう思いいになったり……。

その犬が2歳の時に癌がんに侵おかされ、死ぬと分かっていながら、

その現実を受け入れることができません。

愛犬は私に母の思いを思い出させてくれたと同時に、

子供の時の心も思い出させてくれました。

その愛犬が死ぬ、すべてを呪のろいました。

私から奪っていくと、神仏を呪いました。

そして、愛犬は淡々と死んでいきました。

誰の力も借りずに一人でずっと頑張って生きてきた、

寂しいときの対処もあるし……と高をくくっていた自分がいました。

愛犬が死んで、どれだけ私が寂しかったのかを知りました。

神も仏もあるものかと罵ってきた自分も知りました。

もしあの時に2歳という若さで愛犬が死ななかったのなら、

自分の寂しさにも気付けなかったでしょう。

愛犬が死んで二十四年、

その間に私がその愛犬から学んだことが形になりました。

形は消えて、思いだけが私の中で生きています。

そう教えてもらいました。ありがとう。



◎十七歳九か月で、この犬は亡くなりました。

どんなによたよたしようが、いつも私に寄り添い、

元気はなくとも振動のように思いが伝わり、

もう「死」が近いことも感じていました。

夫と出かけている間に静かに亡くなりました。

すぐには帰れないような所にいました。

そこで「死」を知り、

自分のアマテラスのエネルギーの無力さと、

こんな設定をした思いに「ありがとう」しかありません。

愛から生まれ、愛に生き、

愛へ帰る凜とした思いを伝えてくれました。

(マロン・犬 ヨークシャテリア・オス 二〇一七年七月死亡 17歳)



◎ブラックタンのキャバリア・キング・チャールズ・スパニエル。

何種もの掛け合わせで人間が創^{つく}りだした典型的な愛玩動物。

ティナが食事をとらなくなり、水だけで過ごし、

部屋にこもりきりになって数日、

気持ちよく晴れた日にお散歩をせがむ。

いつものように自転車の籠^{かご}に乗り遊歩道へ、

いつも通りその道を走り抜け、

帰りの籠の中でスヤスヤと眠りについたまま亡くなった。

何の苦しみも憂^{うれ}いもなく、肉体も喜びのままだった。

(ティナ・犬 二〇〇四年死亡)



◎三年ほど前にジョイというシーズーの老犬を預かることになりました。

私にとっては、面倒な存在でしかありませんでした。

目が見えない、耳や鼻の機能も弱り、人に甘えることもなく、

自分の世界で生きているような老犬でした。

姑^{しゅうめ}が溺愛^{でまあい}していたワンちゃんで、

世話をしていると姑が重なり、

可愛い^{かわい}存在と思えませんでした。

娘に、意識を向けてみればと言われても、

どうしても意識と思えず、肉ばかり見ていました。

ある日、寝たきりになったジョイがご飯を食べているところを

ばーっと見ていた時「肉から意識へ」のフレーズが心に浮かびました。

「意識の転回をしなさい」ということなのかなーと漠然^{ぼくぜん}とっていました。

ジョイの食欲も細くなり、息づかいもしんどそうになって来た頃、



第十回のセミナーが琵琶湖でありました。

命が途切れそうで、ギリギリまで行けるかどうかわかりませんが、ジョイの状態が安定していたのと、

動物病院のお医者さんが気持ちよく預かってくれて

セミナー参加ができました。

セミナー中に初めてジョイへの思いを書いてみました。

ノートに悪態をたくさん書いた^{あげく}挙句、

ジョイにごめんなさいの思いが出てきました。

何度もごめんねを繰り返していたら、ジョイからの思いが感じられました。

「すべての意識は愛です。愛のない意識はありません。

それをあなたに伝えます」と……。

ジョイはタイケトメキチだと頭ではわかっているけど、

どうしても意識だと思えなかった私への直球のメッセージでした。

ジョイの世話をしながら、散々、ドロドロの思いを出させてくれて、セミナーへ行くチャンスと反省のラストチャンスもくれて、おまけに、私に一番必要なメッセージのプレゼントでした。

ジョイは完璧だと思いました。完敗でした。

ジョイを肉としか見れなかった私が、

「ジョイはタイケトメキチそのものだ」と思えました。

ジョイへのごめんねの気持ちと爽やかすぎるくらいの完敗の気持ち。

そして、やっと意識と思えたジョイとの時間がもう少し欲しいと思いながらセミナーは終わりました。

家へ帰る途中の駅のホームで、病院から電話があったことに気づき、かけなおしました。

「ジョイが十二時十五分に息を止めました」という知らせでした。
予測はしていたものの、

セミナー終了と同時に息を引き取ったこと不思議な気持ちでした。

なんと完璧なシナリオ……

ジョイの前に、ちっぽけなちっぽけな私でした。

家に帰って病院へジョイを迎えに行きました。

箱の中に収められた冷たくなったジョイを触ろうとしたら、

ジョイから思いがきました。

「私は肉ではありません。意識です」と。

最後の最後までジョイに教わりました。

そのジョイを足蹴^{あしげ}にして冷たくお世話していた私でした。

（ジョイ・犬 シーズー 二〇一八年六月五日死亡 18歳）



◎十六年前に沖縄のNさん宅から子犬を頂きました。

その犬が歳をとり、けいれん痙攣をおこし、

塩川さんの本にあった犬の話を思いだし、

娘と二人で田池留吉を思い体をなでると痙攣が治まり、
亡くなる前の日

「私が肉を脱ぐ時に田池留吉の波動を流します。

心で感じてください。」

そう伝わってきて次の朝、

アウーアウーと鳴いて

大きく息を吸ってスーと肉を脱ぎました。

伝わってくるのは、ただ喜び一色だけ。

喜びで死んでいけるんだと教えてくれました。

(リリーちゃん・犬 二〇一八年三月十九日死亡)



◎目を閉じて思いを向けると、

ともにかえろうとだけ、何度もただそれだけが響いてきます。

肉体がなくなってもう何年もたつけれど、

伝わってくるものは同じです。

今の方がむしろまっすぐに強烈に伝わってきます。

自然ってこういうことだと伝わってきて、

「間違ってきたー」と思います。

うれしくて、うれしくて、うれしくて

間違ってきた私は、涙がとまりません。

しっかりと伝えてくれている方向へ、

ただひたすらに思いを向けていこうと思います。

(ビッツ・犬 二〇一〇年から十一年ごろ死亡 推定14歳)



◎愛犬 ロンの死

病氣知らずの元気だったロンも老年に入り、

医者薬も合わなくなりました。

痛いとか苦しいとか泣くこともなく、

心配している私たちを、うつろな目で追いながら、

それでもロンのしっぽは力なげに、

ゆっくり振って応^{こた}えてくれていました。

「ありがとう」とロンの思いが伝わってきます。

もうロンの肉体は、ギリギリのところまできているのに、

それでも私たちにねぎらいの波動を送ってくれていました。

それから間もなくしてロンは亡くなりました。

私たちに精一杯の喜びを伝えてくれ、

たくさん^{たの}の愉しい思い出を残してくれたロン。

私はロンの死の悲しさよりも、

優しいロンの存在があまりにも大きくて

「ロン、ありがとう」の思いでいっぱいになります。

ロンと共に過ごしたかけがえのない十四年間、

今も思いだしながら胸がいっぱいになります。

ありがとう、ロン。

(ロン・犬 オス 二〇〇四年三月死亡)



◎父と妹二人が同時に、それぞれ命に関わる癌^{がん}や、

くも膜下出血で手術し入院している最中、

愛犬の花ちゃんまで悪性腫瘍^{しゅよう}と診断され、

花ちゃんは三日ほどであっけなく先に死んでいきました。

なんとも不思議を感じました。

亡くなるその日は、横にもならず、

何の恐怖も見せず、じっと座っていました。

私が、もう十一時になるからお風呂に入ろうと

ちよつと離れた間に亡くなっていました。

ただそのまま横たわっていました。

なんと静かに逝^いってしまったのか……。

恐怖ではありません。

私は自分の本当の姿を知っています。
だから、何もかもありがとうございます。
長い間、この家で幸せでした。
ありがとうございます。

死を恐怖し、うろたえる私達に、
死に対するお手本を見せてくれました。
意識の世界から波動を伝えるために
私達のところに来てくれたんだなあ。
ありがとう、ありがとう、
最後の最後までありがとうございます。

（花子・犬 二〇〇八年死亡 11歳）



◎何度も違う人間の手の中で転がされて我が家に来たときには、プラスチックを噛み砕いて食べてしまう癖がついていました。その結果、腸を切除する手術を受けなければなりませんでした。

アイヌ犬は、もともと北海道の犬で、

主人が姉の知人よりもらい受けた犬で、

本当ならコンテストに出るはずだったようです。

けれど、「翔」より良い犬が出たということ、

急きょお払い箱になりました。

熊から主人を守る犬、飼い主以外の人間は受け入れません。

けれど「翔」はまだ優しいほうだったと思います。

死は突然に訪れました。

「翔」の一番大好きな息子を相手に、

庭を駆け回り、抱きついたり、絡んだり、猛ダッシュ。



そして、私の膝に喰らいついた「翔」を慌てて息子が離してやっと解放、私は「ご飯をくれる人」だから「翔」のお氣に入りです。

五分後、ジュースを買うために家から出た息子の悲痛な叫び、さっきまであれほど遊びまわった「翔」はいません。

プラスチックを食べ、「なんでやねん」で始まって

「なんでやねん」で、いなくなった可愛い愛犬、

なんで死んでいくの？

受け入れがたいこの事実を前に、号泣の家族でしたが、本当にこうして、逝くんだよって、教えられたんですね。

でも、さよならの思いも、

ありがとうの思いに変わるほどの凄さで駆け抜けていった翔君でした。

まだ、ついこの間の出来事です。

(翔・アイヌ犬オス 二〇一八年四月二〇日死亡)

◎返品されてきた子犬

ゴロは、以前の飼い主が「代金はいらないから」と、ペットショップに返品されてきた子犬です。ゴールデンとラブのミックスで、イタズラ盛りで「とても飼いきれない」と飼い主に見放みはなされました。女房の妹がペッショップに関係した仕事をしており、「このままでは殺処分になるから、姉ちゃん飼ったって……！」と言う次第で、我が家に来るようになりました。

以来、家族の一員になったのですが、たまたまお願いした訓練士に刃向かうほどで、「しっかりしつけないと噛かみ犬になりますよ」と警告を受けたようなやつです。

家が破壊されるのでは、そんな危き惧ぐを抱いだかせるような状態でしたが、ともかくかわいいのです。奈良から大阪の大宝へ引っ越すときも、我れ先にと車に乗り込んできて「さあ行きましょう」とすまし顔でこちらを見ていたの思ひ出します。

大宝では田池先生にかわいがられ、訓練士にも、ドッグカフェの店主にもあきれたゴロでしたが、こちらの気持ちをくみ取ってくれる一番の友人になっていきました。

ゴロが死んだいきさつは、何か毒でも食べたのか、からだ身体の中で出血が起こり、目が充血していることに気づいたときはもう手遅れ。

入院先の獣医さんにも「家で死なせてやってください」と連れて帰ってきた次第です。

連れ帰った翌朝、フラフラしながらも「外へ出たい」というので、庭に出してやるとおしっこだけして家へ上がろうとするのです。でも自力で上がれず、僕が抱き上げて床の上に置こうとすると、いきなり口から血が流れ出し、そのまま死んでしまいました。

「人と動物のいる風景」で、ゴロのことを書こうと思いましたが、つらくて書けずにはいました。檀原セミナーで、塩川さんから「書いたら」と言われ、そ

れでもためらっていましたが、二回目のセミナーで「ゴロ」のことを考えていて、「三番の方、前へ出てください」と自分の順番が来たのに、声は聞こえているのに遠くで言っているようでぴんと響いてきません。そのまま前へ出ないまま「波動の勉強」が始まってしまいました。すると、ゴロが「お父さん、勉強の時間ですよ」と語ってくるんです。そこで、自分の席に着いたまま現象に参加させてもらいました。それからです、「田池留吉に向けて」という瞑想になると、ゴロがリードしてくれるのです。

一緒に「お父さん、田池留吉に心を向けていきましょう」と横に座ってくれているゴロを感じます。

生きているときは、散歩の時、自分がリードしていると思っていましたが、今はゴロにリードされている自分を感じています。



Natural Disaster

天変地異

天変地異は悪のエネルギーだ、私達の生命と生活を脅かすものだ、今は殆どの方は、そのようにとらえています。決して天変地異のエネルギーを喜びのエネルギーだとは思っていません。天変地異が起こってくれば、忌み嫌う思い、祈りの思いをどんどん増幅させいきます。

「その思い、それぞれ一人ひとりが出す思い、エネルギーを見てください。そして自分の中から流れていく真っ暗な思いこそが、形の世界を崩壊していく破壊のエネルギーであることに気付いてください。」

天変地異からの確かなメッセージを心でしっかりと受け止めていけるよう、日々精進してください。心を見るという作業を通して、自分の生まれてきた意味を心から知って、そして、本当に喜び人生を味わっていきましょう。（塩川 香世）

◎天変地異に遭遇、そして別れ。ワンちゃんにとり死別は悲しみではないのだろうか？
愛犬の意識の世界を思いました。愛犬の死後の世界が語ってきました。

喜びです。ただ喜びです。

喜びとひとつになっていき、無限に広がっていきます。

私という思いはありません。死は肉の思いです。

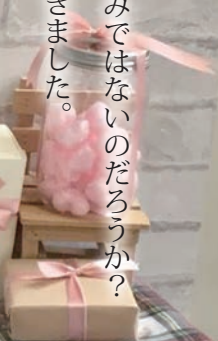
死も悲しみもけしつぷほどのものになり、

やがてなくなっていくます。

私は意識です。どこまでも無限に広がりゆく

愛、喜びの意識です。

死を悲しむ間もないほどに、物凄^{ものすごい}い喜びのエネルギーに
変わっていくさまを感じました。その喜びの大きさは、



人間が死、死別、悲しみと大騒ぎする世界がけしつぷほどこに小さな小さな世界になるくらい、大きな大きな無限に広がり続ける大きな喜びのエネルギーと一つになつていくさまを感じました。本来、人間もそうだったのに、自分を小さく小さくおとしこめていったのだなと実感しました。

(ボピー・犬 パピヨン・オス 12歳)

◎全部、優しいんだよー。

怖いけど、別にいいんだよー。

すごいなあ、と思いました。

私は天変地異が怖いのでこのテーマを選びました。

私は死ぬのが怖いですが、

くつきーの、自分とは違う思いを感じたことがよかったです。

(くつきー・犬 7歳)



◎はい、喜び、喜び、喜び、喜び、喜びの現象です。

私たちは、天変地異のエネルギーを、

ただただ受け止めてまいります。

ああ、あるがままの姿を、

ただただエネルギーとして喜びで受け止めております。

形が崩れることには思いはいきません。

エネルギー、エネルギー、

天変地異は、何も特別なものではないです。

大きな大きなうねりの中で、

私たち動物は、ただただこの喜びの中で

天変地異を感じております。

(ピーコ・インコ 一九八九年死亡)

Wave

波動

万象万物、すべては波動の世界です。目に見える、今、目の前に広がっている形ある世界は、影の世界であり、波動、目に見えない波動の世界こそが真実の世界。

学びの大前提です。肝心^{かんじん}なのは、その波動の世界にもプラスの世界と、マイナスの世界があるということです。プラスの波動とはどんな世界なのか、マイナスの波動とはどんな世界なのか、それぞれにお勉強なさってください。

あなたの心で感じ分かっていくお勉強を重ねていけば、プラスの波動の世界は、マイナスの波動を全部吸収受け入れていくことを知っていくでしょう。

だから、そこには争い^{あらそ}が起きりません。闘いは起きりません。そんなプラスの波動を互いに流していけば、理想郷も夢ではないんです。ただし、今の人類の有様は金と神で汚れ切っていますから、その一掃^{いつそう}は決して避^さけては通れない道筋です。

天変地異という形で一掃されていきます。（塩川 香世）

◎何度もその肉を使って伝えてまいりました。

荒れ狂った、どうしようもない

あなたの意識の世界を感じてくださいと、

何度も促^{うなが}してまいりました。

あなたは私の肉だけを見て、

私のメッセージを受け取ることができませんでした。

最後に、私は私の肉を呈して、

あなたから流れる波動を受けてまいりました。

どうかどうか知ってください、

あなたから流れる波動を感じてください。

私はあなたにそのことを伝えるために

あなたの元にやってきた意識です。

(ポポ・犬 二〇一六年死亡 8歳)



◎ほたるに思いを向けてみます。

「タイケトメキチに心を向けましょう。」

「意識の世界が本当の世界です。」

何もしなくてもよい。

ただいるだけで心が落ち着く。ほっとする。
人間では味わえない優しさ・温もりがある。
ずっと一緒にいたい。

タイケトメキチの世界を信じている意識と
一緒にいると癒^いされる。

自分もタイケトメキチに心を向け、
本当の自分に少しでも帰りたいと思います。

(ほたる・犬 12歳)



◎朝、シャッターを開ける、

そこから見える風景には格別のものがあります。

三階に住んでいる私の目に飛び込んでくるものは、
空と、緑の竹藪——。

「おお、ありがとう」と、一瞬言葉が飛び出てきます。

見上げれば真っ青の空、高い高い広い空、

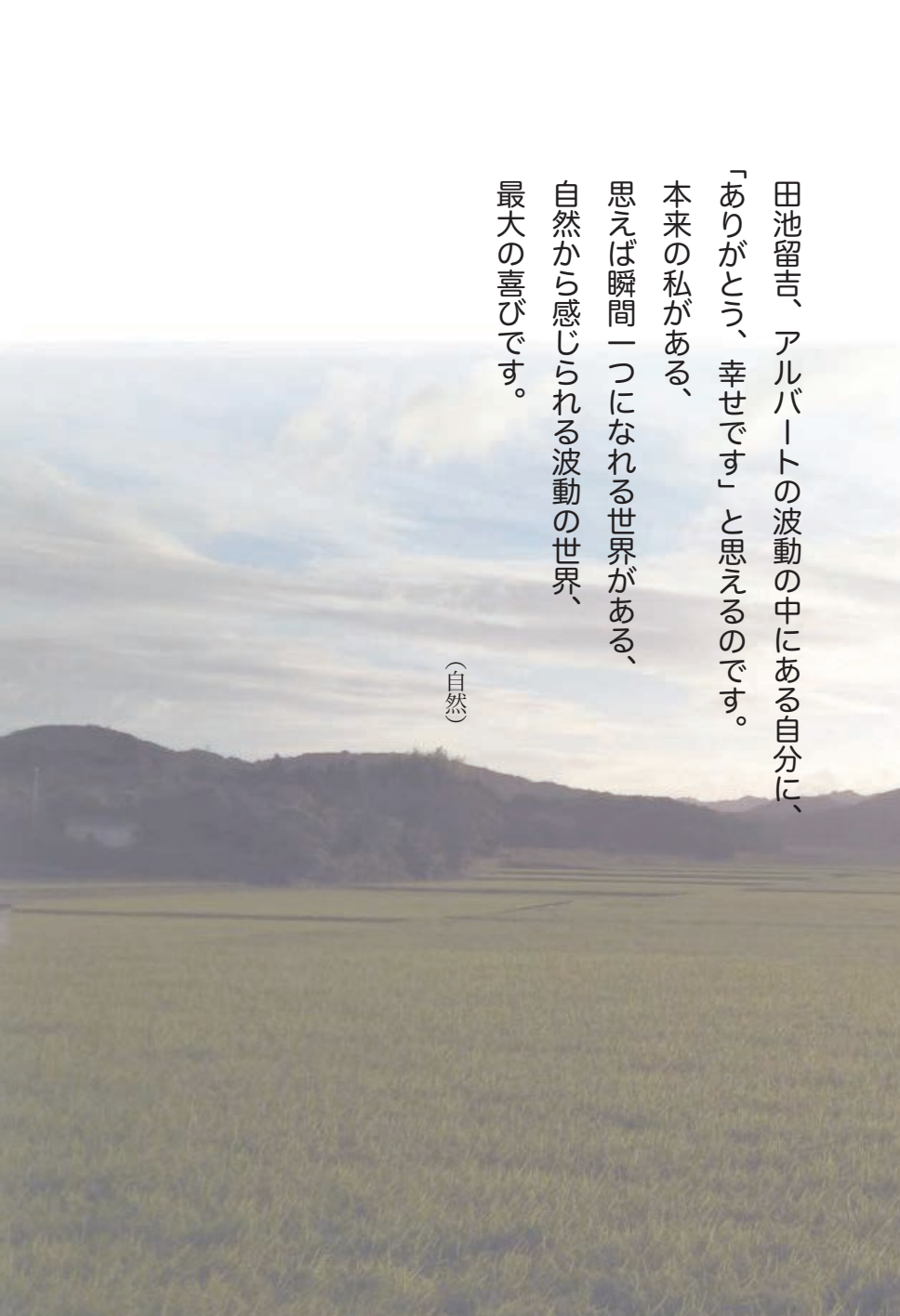
吸い込まれそうになる程の天空。

涙が溢^{あふ}れてきます。

私はこんな素敵な波動の中にあるのかと、

山川草木、空気も、流れる雲も、風も、

そしてそして、



田池留吉、アルバートの波動の中にある自分に、
「ありがとう、幸せです」と思えるのです。

本来の私がある、

思えば瞬間一つになれる世界がある、

自然から感じられる波動の世界、

最大の喜びです。

（自然）

◎植物を処分していく状況に、私の思いが引き出された。

「好きなこと、大切にしたいもの。」

何で私の前から消えていくの。もう嫌。」

この思い、まだだ。好きなもの、したいこと、大切な人。

私の前から消えていく度、悲しみ、恨み、人生は苦しみだ。

「生まれなくなかった」と真っ黒な思いを流してきた。

植物に思いを向けると、

私の思いと関係なく、優しい温かい思いを感じた。

私と全然違う。

すごいな。ありがとう。ごめんなさい。私が間違っていた。

私の中に、他力の思いがずっしり詰まっている。

この心を見えていきます。

(観葉植物、ポトス、多肉植物、カランコエ、ミント、サンスベリア)

◎「最近特に自然の調和を感じます。自然とは？」
波動です。

形を見てきれいだとか研究対象にするとか

自然から未知なるものを見出そうとしますが、

思いを向けて感じたもの、

それが自然の姿です。あなた自身です。

心が安らぐなら、それもあなたの中にあります。

幸せな気持ちになるなら、

その感じたものこそが、自然であり、あなたです。

私たちは喜びで存在しています。

それだけです。

(撮りためた植物たち)

◎黄色い羽のセキセイインコを十年前から飼っています。

彼女の名前は、きいちゃんと言い、生後二ヶ月で我が家に来てくれました。

私の娘が、小学五年の時に、今いる地に引っ越して来て、転校先の学校に馴染めず、家に居る時間が長くなり、お友達が欲しいなあ……と思い、鳥ならば、家の中で静かに飼うことができるし、私が子どもの頃に父親が飼っていた経験がありました。

昨日、彼女と長い瞑想をしました。

「きいちゃん」と声をかけると、

体が少しだけ、ピクンと揺れます。

そうして、きいちゃんは^{まぶた}瞼を閉じます。

長い時間一緒に瞑想しました。

心地よい波動が流れます。

穏やかな優しい時間を彼女と過ごします。

そして痛みのある私の踵かかとに向けてみます。

痛みが心地よい波動に変わります。

彼女の指も、一本最初からありません。

彼女の足も心地良かったかなあと思いました。

(きいちゃん・セキセイインコ 10歳)

「逆上がりをして、こちらの気を引きます。
今日も、快調です。」

◎ ジュンの目は澄み切っていた。

お母さんに抱かれています赤ちゃんの目と同じだ。

優しかった。ただ優しかった“お老いた”母を見下げ抹殺するエネルギーを吐き出している私をジュンはじっと見ていた。ただ優しい目だった。

ジュンという存在が、どれだけのプラスのエネルギーをマイナスで覆い尽くされた私に投げかけてくれていたか、どんなメッセージを流し続けてくれていたか、肉の世界だけで接しているだけでは、気づけない。

なぜ生まれてきたのかもわからない。

中へ中へ、心を、心の針を中へ……

自分と真向かいになっていけば、必ず今まで見えなかったものが見えてくる、出会えなかったものに出会える、そんな思いがあがってきました。

ジュンにありがとう。

◎ ジュンを思った。寂しさを問う。

しばらくして、『宗教』と浮かんだ。

寂しさというものをしっかりと固めて、

それを見るなと声がした。

寂しさを埋めるために、寂しさから逃れたいから

宗教を心にとしっかりと掴んできた、

そんな思いがあがってきた。

ジュンを思った。寂しさというものが全く感じられない。

何もない。ジュンにはない。

私はしっかりと固まった寂しさを溶かして、

寂しさと真向いにならなければ一歩前に進むことはできない、

そうしっかりと自分から伝わってくる、ありがとう。



◎自然は、本当の自分を伝えてくれていると思います。

温かくて、優しくて、軽くて、素直で、

すべてを受け入れている。

いつ思いを向けても、

そんな波動が伝わってきます。

自分の心の実態が真っ黒であっても、

その一方で、

喜びが確かに存在しているということを

証明してくれています。

存在しているのは真っ黒だけではなかった。

私たちは同じ、ひとつです。

そんな波動、メッセージをいつも伝え続けてくれている最高の仲間です。



（ほたる・犬 12歳）

◎今から、十五年ほど前に

我が家に三ヶ月のオスのポメラニアンがやってきました。

小さなたぬきのようなだったのでポン吉くと名付けました。

家の中で動物を飼ったことのない私たち家族には衝撃でした。

あらゆるところでおしっこをし、

神経質な私の心を訓練して広げてくれました。

夜中にトイレに行って二階に上がっていくと

階段のところで待っていてくれて、

無言でまた自分の寢床にもどって寢ます。

そのやさしさが言葉になりません。

以前、姑おいぢが「ことばがしゃべれたらいいのにね」と言ってくれましたが、

「しゃべらないからいい」。ポンの目をみていつもそう思います。

（藤田ポン吉・犬 オス 15歳）



◎ベンジャミンは、私の憧れでした。幸福の象徴でした。

裕福な家庭、幸せな家庭の中で、幸せな家族の中で、ぬくぬくと育てられている、そんなイメージでした。

育てるのが難しいという話も聞いていました。

でも、三〇センチぐらいのベンジャミンの樹を購入して、

一旦は枯^からして、落胆^{うくたん}し、見たくもないと、

ベランダの外に放置していました。

でもある日、ふっと水をやってみようかなと思い、水をやりました。

息を吹き返して、樹のねじってある部分を解^とき放^{はな}ち、

伸び伸びと育っています。

青々と若葉は芽吹き、黄色くなって自然に落ちていく。

それは自然という、愛でした。

葉っぱに付いているほこりを、タオルで一枚一枚拭^ふいていきます。

葉っぱから、樹から優しい思いを感じ、癒^いされていきました。

葉っぱはお母さんでした、優しい優しいお母さんでした。

お母さんは、葉っぱはあなたですよ、語ってきます。

裕福な家庭というのは、私の心の中にありました。

たとえ一人という境遇であろうとも、

ベンジャミンから教えてもらったのは、

私の中に、愛があるということでした。

(ベンジャミンの樹)



ベンジャミン

◎私は、二匹の愛猫に助けられて今があります。

会社勤めの夫の両親の介護、

反抗期の子供達の世話をしながらの生活でした。

心身ともに疲れ、自律神経失調症で苦しみ、

注射や薬もたくさん飲んでいました。



仕事から帰るとブッちゃんが喜んで「お帰り待ってたよ」と思い、膝ひざや肩に乗って癒いしてくれました。ある寒い冬、激しい痛みで思わず「助けて」と言いました。こたつで寝ていたブッちゃんは私のお腹なかの上に乗ってマッサージを始めました。そのあと、じっと暖めてくれました。痛みはなくなりうれしかったです。己偉い私は肉体細胞が悲鳴を上げているのに自分自身に鞭むち打って頑張っていました。肉体細胞の愛で、今度は脳梗塞のうこうそくになり、車の運転は無

理、会話もできなくなり、会社を退職しました。

朝は起きられない状態の時、ミーちゃんが朝五時になると可愛^{かわい}い声で起こしに来てくれるようになり、少しずつですが動けるようになりました。散歩好きのミーちゃんと一緒に外に出ました。庭の花や野菜たちもうれしそうに感じました。しばらくすると、小鳥の鳴き声、川の水の流れる音、野山を見ながら散歩している私、無償の愛に愛され、生きている自分に気づき、うれしくなりました。長い間病院では治^{なお}らなかった病気は動物と植物の愛で元気な私に変わらせていただきました。

今思うことは、自分が流してきた間違った思いが体に現象化したのだとわかります。苦しみは神の愛でした。それが愛猫の愛によって私の激動の時代を支えてくれて本当にありがとうございます。

（ブッチャン・猫 二〇〇一年死亡／ミーちゃん・猫 二〇〇二年死亡）

◎当時、我が家は共働きで家のローン返済が終わった年、夫は交通事故で入院、入替に私も過労で入院しました。生後一ヶ月のミーちゃんが来ました。

長男は高校入試を控えて、

気持ちはいらだち、暗く部屋の戸を閉めて、

私との会話はなかったのにミーちゃんを見るなり、

「僕は猫が好きや、僕が世話をするからね。」

うれしそうにそう話してくれました。

苦しい時期にミーちゃんとの出会いで家が明るくなり、優しいと感じたことを思い出します。

ミーちゃんの愛の波動に感謝の思いです。

(ミーちゃん・猫 二〇〇二年死亡)



◎夫に対して、なんで学びをしないんだと、
日々、責める思いばかり。

ある時、夫に腹を立てたあと、散歩につれて行こうとした時、
愛犬が夫の所に行き、散歩に誘う仕草をしました。

お父さんも一緒に……お母さんと一緒に……
やさしい波動で誘っていました。

とてもやさしい温かい愛犬の波動でした。
学びと一緒に……

あんなにやさしい、

素直な波動で一緒にと誘えるようにと、思いました。

(まる・犬 8ヶ月)



◎ここ二年くらい前に、シャム猫を庭でよく見かけるようになり、

どこの猫かな？ と思っていたら、一年位前には白黒の子猫（野良^{のら}）と一緒に歩いていて、半年位前に、シャム猫ちゃんを見かけなくなった。

白黒の子猫ちゃんが大きくなり、ここ一か月位にシャム猫ちゃんと白黒猫ちゃんと子猫二匹が加わり、この近辺を歩いているようで、近所で餌^{えさ}をあげている家があるかと思うと、別のお宅では汚物をされたりと、その猫ちゃんたちを思うことが多くなり、意識を向けてみました。

人間の思いとは全然違い、動物には、善悪はないんだと、道德というものは一切ない。本能が中心なんだと感じました。意識は田池留吉。

得も損もなく、ちよつと肉では理解しがたいが、それこそが人間が作り上げてきた物を、いろいろと見せてくれている。

猫の世界から見れば、飼い猫も野良猫^{のらねこ}も関係ないようです。

Our Home Land

ふるさと

ふるさとへ帰ろう。そういざなわれています。呼び掛けられています。～れている～られているという表現ですから、自分の外からと思いがちですが、そうではありません。あなたの中からあなたにいざないがあつて、呼び掛けがあるということです。

ふるさと。もう知っていますね。愛です。私達の心のふるさととは、愛、母なる宇宙です。愛、母なる宇宙、漠然とした表現だなあという感想をお持ちのあなた、決してそうではありません。非常に具体的なんです。心で分かる人には分かる世界、それが波動の世界なんだと言っておきます。動物や植物と違って私達人間は、ある意味ぼんくらになってしまいました。

心の世界、意識の世界、波動の世界をもっともっと大切にしていきましょう。

ということは、自分を本当に大切に、今、肉体を持っている今を大切に、大切にしていきましょうということです。そして、ともに私達のふるさと、遠い遠い昔、出てきてしまったあの懐かしい、懐かしいふるさと、愛の中へ帰っていきましょう。帰っていく道筋をあなたも、そしてあなたも心で見つけてください。きっと見つけてください。きっと見つかる私は信じています。

(塩川 香世)

◎ありがとう。

ありがとう。ありがとう。

私たちは宇宙でした。

私たちは宇宙でした。

肉体細胞よ、ありがとう。

長い間、私を支えてくれました。

ありがとう。ありがとう。ありがとう。

(ジョイ・犬 二〇一八年六月五日死亡 18歳)



◎愛犬は死んだ後の世界を知っている。

母なる宇宙を知っている。

だから病気も死も恐れることがない。

私たちは愛を見誤ってきた。

帰る場所が分からず、悩み苦しんできた。

心の針の向け先の違い、

波動の違いを伝えてくれた。

暗黒の宇宙に沈み込んできた意識だけれども、

こっちだよ、こっちだよと

いつも優しく力強く誘^{いざな}ってくれています。

(ライラ・犬 シェルティー 12歳)



◎私は小さい頃から宇宙が気になり、なぜか宇宙に思いを馳^はせるのです。世間に馴^な染^じめ
ない私はちょっと変わった人間なのではないか、宇宙人なのではないかと思っていまし
た。宇宙について、故郷の山々に聞いてみます。宇宙とは？

あなた自身です。

あなたは宇宙です。

あなたのふるさと、母なる宇宙、

そこへ帰りがかったのではないですか。

ふるさとが忘れられなかったのではないですか。

ふるさとを思い、ふるさとへ帰りましょう。

私たちは一つです。

(故郷の山々)

◎はい、ふるさとは、私の心そのものです。
ただただ無限に広がりゆく温もりの世界、
私はその中で生き続けている意識です。
ああ、形ある時も、形なくした時も、
ふるさとそのものの中におります。
あなたもどうぞ、
ふるさと思いを向け続けてください。
優しい優しい世界です。

（カメキチ・亀 二〇〇三年行方不明）



おわりに

塩川香世

最後まで読んでいただけましたでしょうか。感じていただけましたでしょうか。

できれば、読んだ後の感想や感じた思いをUTAブックさんにお伝えしていただければ、嬉しく思います。

本書は、9つのテーマを設けて、そのテーマについて、学びの友が自分達の家族である動物や身近に接している植物に思いを向けて彼らに語っていたという内容です。実際にその作業をされた方は、そのことを通して波動の世界を感じてよかったという感想を一樣にお持ちだと推察しています。

また、UTAブックさんに原稿を送付されなかったけれど、同様に自分なりに色々この企画に沿って勉強された方もおられると思います。

お分かりのように、動物や植物は私達のように言葉という形を通して語ることはありません

んが、実際はいつもいつも私達に語ってくれています。

波動として存在している彼らから流れ来るものを受け止め、そして波動の世界は確かにあるんだという思いを知る方向に生きてください。

私も今回のUTAブックさんの企画により、学ばせていただきました。9つのテーマの文字を見たときに心に浮かび上がってくる思いをキーに打ち込みました。

日々、何を思っ生きてきたか、生きているか、これからどう生きていくか、どうぞ、自分に問いかけてください。

私達人間は、これまで誰一人として正しく生きた人はありませんでした。

自分が生まれてきた本当の意味を知らずに、金、神に狂い続け、闘いのエネルギーをまき散らしてきたことに、これから一人でも多くの方が気付いていかれるだろうと思います。

たびかさ度重なる天変地異を通して、形の世界が根こそぎ崩れていく局面を迎え、いよいよ、いよ

みずかいよ自ら進むべき方向を見極めていくこれからですというメッセージで、本書を閉じさせていただきます。

◇原稿にご協力いただいた皆さん

朝日江美・朝日めぐみ・阿部奈月・池田登志子・板倉直子・市川明子・
伊藤努・上野佐織・植野隆子・海老名典子・大河内径子・太田弘子・
岡田宮子・金澤知子・金枏かおり・金子育子・神村朝勲・北山祐子・
桐生敏明・桐生由美子・キョウコ サエグサ・櫛山聡子・櫛山哲子・
楠本光代・栗生英司・栗生啓子・小濱千晶・小林力弥・駒井美智子・
西前忠久・西前智子・西前菜花・斉藤緑・清水貞博・下境田良子・
新庄美紀・砂川タカエ・関谷敬子・宅間節子・竹中千佳・辰巳笑
美子・谷村美智子・辻早穂・津野裕子・仲亀友子・中務敬子・西
田テル子・西田博史・野添訓・橋爪あき子・蓮沼邦子・原頭智子・
春山隆恵・橋本直美・東野洋子・藤田厚子・藤田泰代・松村謙三・
水本裕子・水本佳典・三ツ矢千代子・村田恭子・柳田弘一・山口
晶子・山路加奈・山路昇子・山本嘉奈子・山本ちひろ・山本道子・
矢持和美・吉田アツ子・吉鶴みち子・渡辺秀雄

人と動物のいる風景

初版発行 2018年9月20日

監	修	塩川 香世
編	集	UTA ブック編集部
電子図書制作		UTA ブック編集部
発	行	一般社団法人U T Aブック
		TEL 0745-55-8525 FAX 0745-55-8440
印刷・製本		株式会社シナノパブリッシングプレス

© UTA-BOOK, Printed in Japan 2018